

公営企業局

令和6年度 決算の概要

令和7年7月 尼崎市 公営企業局

水道・工業用水道事業

下水道事業

モーターボート競走事業

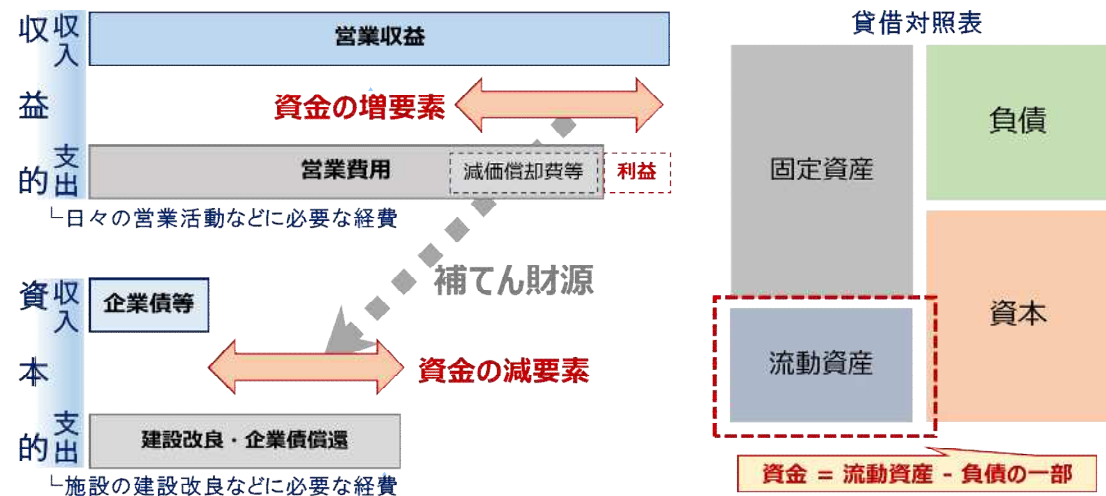
目次

水道事業	P. 3
工業用水道事業	P. 12
下水道事業	P. 20
モーターボート競走事業	P. 29

数値に関する説明

本資料の数値は全て表示単位未満を四捨五入で記載・文中の数値や表・グラフ内で合計が不一致の場合あり

収益的収支・資本的収支の説明



1 業務の概要

区 分		令和6年度	令和5年度	増減	増減率
給 水 人 口		453,646 人	453,811 人	△ 165 人	△ 0.0%
給 水 戸 数		251,992 戸	250,181 戸	1,811 戸	0.7%
給水量	年間総量	48,345,048 m ³	48,593,005 m ³	△ 247,957 m ³	△ 0.5%
	一日平均	132,452 m ³	132,768 m ³	△ 316 m ³	△ 0.2%

- 給水人口は165人の減
- 給水戸数は1,811戸の増
- 年間給水量は0.5%の減となる4,835万m³



- 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加などにより一時的に給水量が増加したが、その後は再び減少傾向

2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

		(百万円)		
		令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	収入	8,913	8,828	① 85
	支出	8,062	7,817	② 245
	当年度純利益	③ 850	1,011	△ 160
資本的収支 (税込)	収入	773	1,527	④ △ 754
	支出	3,695	4,077	⑤ △ 382
	差引 (A)	△ 2,922	△ 2,550	△ 372
補てん財源(当年度発生分) (B)		2,580	2,671	△ 90
資金収支 (A + B)		△ 342	121	△ 463
資金残高		⑥ 8,033	8,375	△ 342

- 収益的収支の収入は9千万円の増（①）、支出は2億5千万円の増（②）、純利益は1億6千万円の減で8億5千万円（③）
- 資本的収支の収入は7億5千万円の減（④）、支出は3億8千万円の減（⑤）
- 年度末の資金残高（資本的収支不足額29億2千万円の補てんを反映）は80億3千万円（⑥）

◇収益的収支：日々の営業活動などに必要な経費

◇資本的収支：施設の改良などに必要な経費

◇補てん財源：純利益、損益勘定留保資金（費用計上するが支出を伴わない減価償却費等）等

純利益の増減の分析

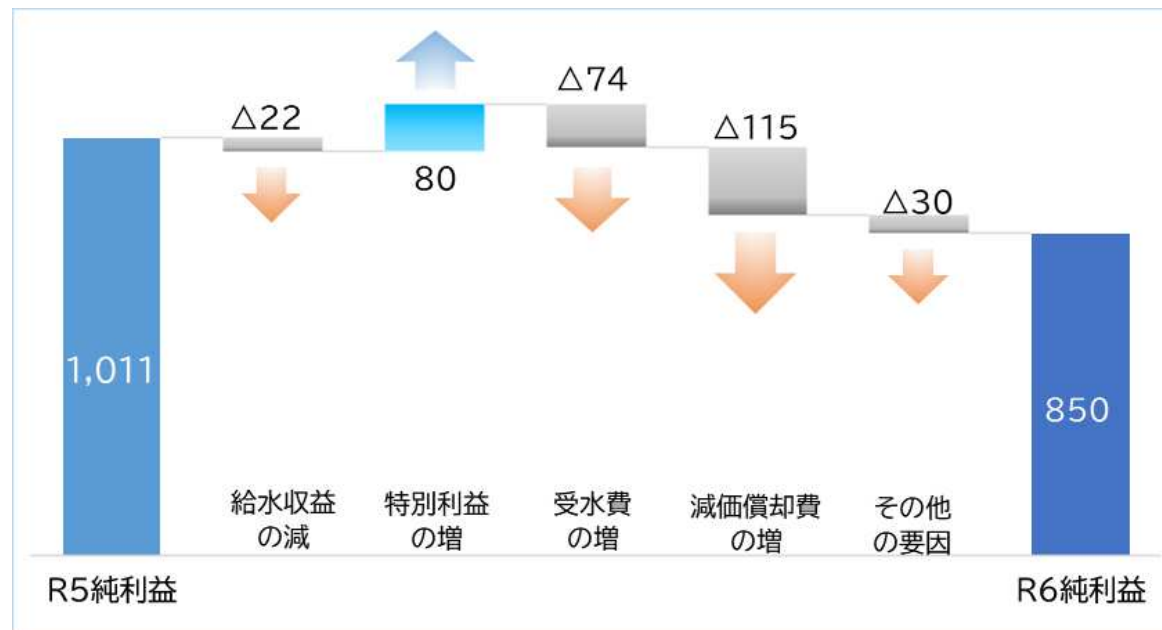
(百万円)

			令和6年度	令和5年度	増減額
収 益 的 収 支 (税 抜)	経常損益	収入	8,831	8,826	5
		支出	8,059	7,814	244
		差引	772	1,011	△ 240
	特別損益	収入	82	2	80
		支出	4	3	1
		差引	78	△ 1	79
	当年度純利益		850	1,011	△ 160

- 純利益は、特別利益の増などの改善要因があったものの、給水収益の減、受水費や減価償却費の増などの悪化要因があり、全体で1億6千万円の減

【増減要因分析】

(百万円)



収益的収支・資本的収支の詳細

(千円)

		令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	水道事業収益	8,912,556	8,827,937	84,619
	経常収益	8,830,612	8,825,952	4,660
	給水収益	7,775,256	7,796,749	△ 21,493
	長期前受金戻入	134,230	109,942	24,288
	その他収益	921,126	919,261	1,865
	特別利益	81,944	1,985	79,959
	水道事業費用	8,062,408	7,817,434	244,974
	経常費用	8,058,723	7,814,453	244,270
	人件費	777,216	791,626	△ 14,410
	給料・手当等	759,941	791,626	△ 31,685
	退職給付費	17,275	-	17,275
	動力・薬品費	152,316	129,400	22,916
	受水費	3,601,196	3,526,679	74,517
	減価償却費等	1,627,192	1,517,861	109,331
資本的収支 (税込)	支払利息	148,125	157,319	△ 9,194
	物件費	1,752,678	1,691,568	61,110
	特別損失	3,685	2,981	704
	水道事業資本的収入	773,168	1,527,251	△ 754,083
	企業債	700,000	1,300,000	△ 600,000
	負担金等	73,168	227,033	△ 153,865
	水道事業資本的支出	3,695,233	4,076,899	△ 381,666
	人件費	128,848	115,817	13,031
	建設改良費	2,622,233	3,021,254	△ 399,021
	企業債償還金	944,152	939,828	4,324

➤ 【収益的収入】 給水収益の減があったものの、長期前受金の増、特別利益の増（阪神水道企業団の明石市新規加入負担金の増）などにより、全体で8千万円の増

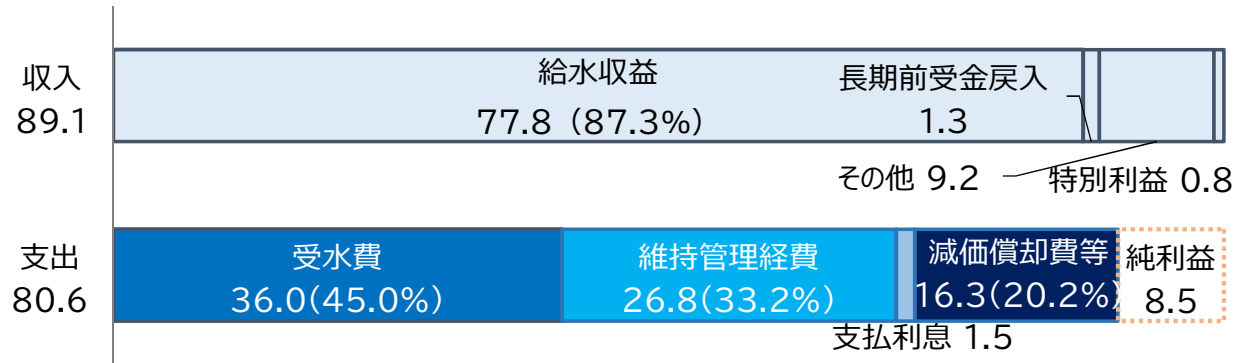
➤ 【収益的支出】 人件費の減があったものの、阪神水道企業団からの受水費の増、減価償却費の増などにより、全体で2億4千万円の増

➤ 【資本的収入】 企業債借入額の減、他会計負担金の減などにより、全体で7億5千万円の減

➤ 【資本的支出】 建設改良費（配水管整備、設備更新等）の減などにより、3億8千万円の減

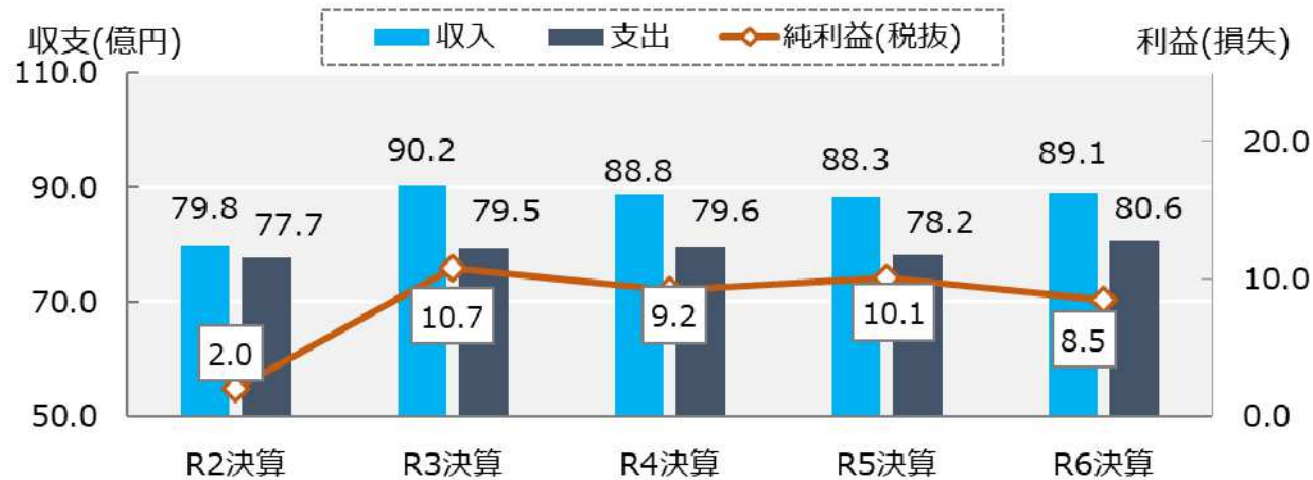
収益的収支の構成・推移等

収入・支出の構成



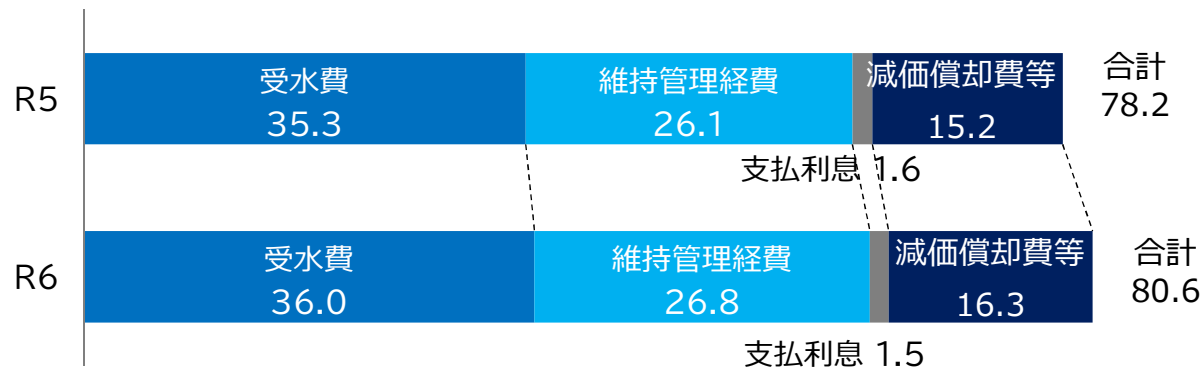
- 収益的収支の収入では、給水収益がおよそ9割を占めており、支出では、受水費が全体のおよそ5割を占めている。

収支の推移



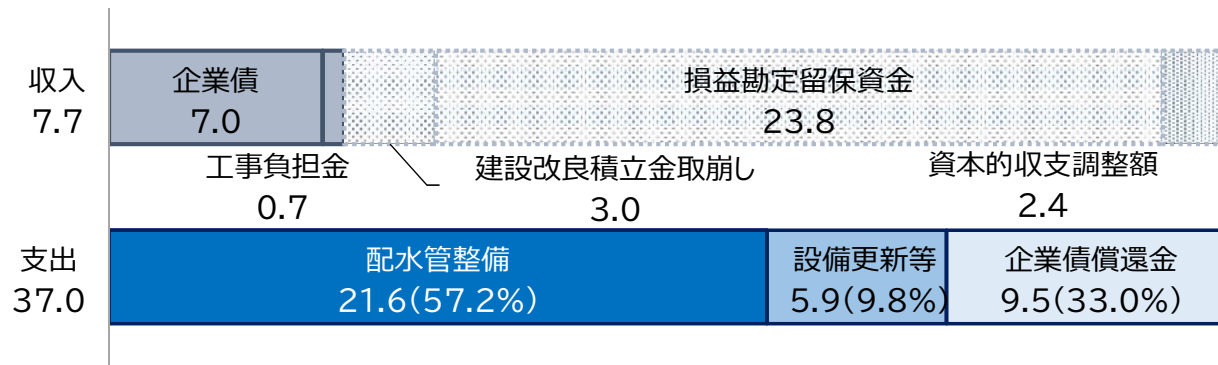
- 純利益は新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度（基本料金減免9億3千万円）を除けば、直近5年間で最も低い水準

支出の比較



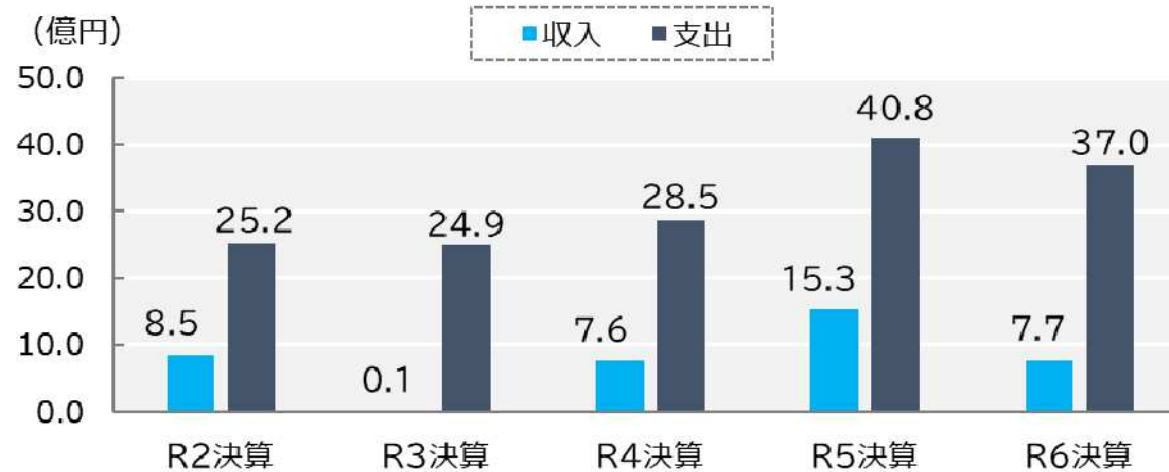
資本的収支の構成・推移等

収入・支出の構成



- 資本的収支では、通常不足が生じるため、損益勘定留保資金（現金支出を伴わない減価償却費等）や建設改良積立金の取り崩し等により補てんしている。

収支の推移



支出の比較



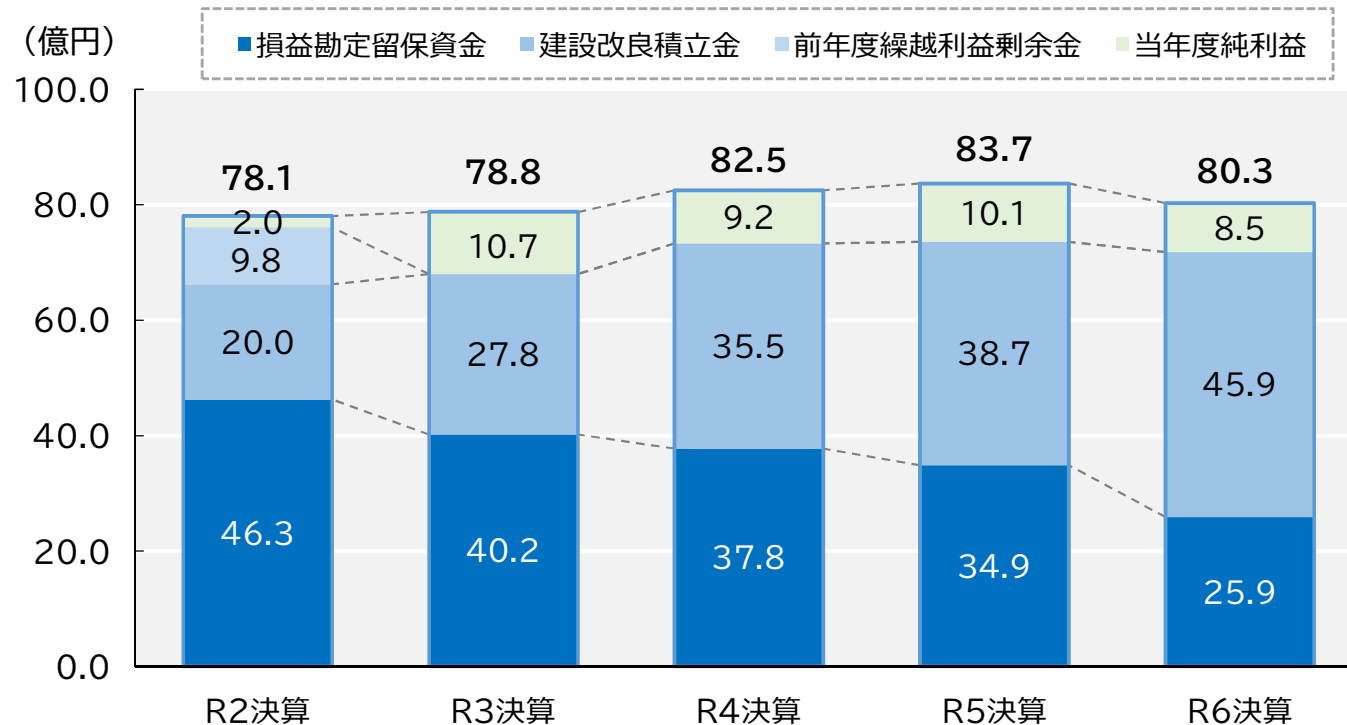
3 利益処分・累積資金残高等（ストックの視点）

利益処分（案）

処分前残高	(千円)	処分後残高	(千円)
建設改良積立金	4,586,744	建設改良積立金	5,436,892
当年度未処分利益剰余金	1,150,148	議会の議決による処分数額	1,150,148
前年度繰越利益剰余金	-	建設改良積立金の積立て	850,148
当年度純利益	850,148	資本金への組入れ	300,000
建設改良積立金取崩し	300,000	繰越利益剰余金	-

- 令和6年度の当年度純利益8億5千万円は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積立て
- 建設改良積立金の取崩しに伴い発生した3億円は、資本金に組入れ

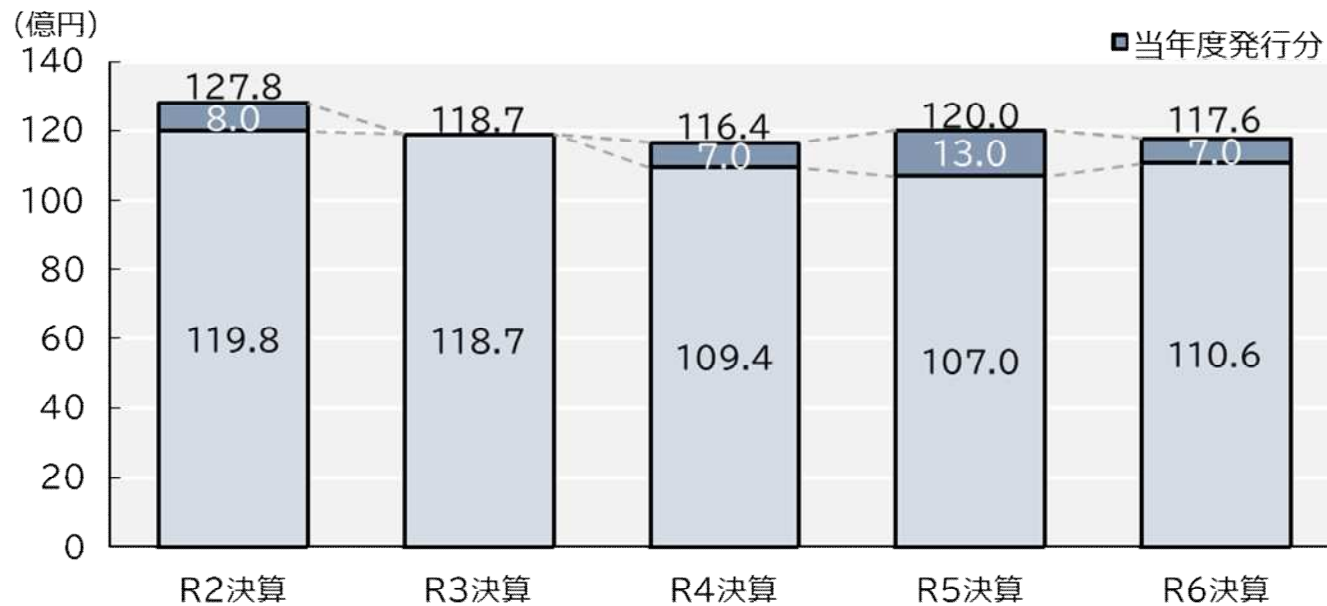
累積資金残高の推移



- 令和6年度末の累積資金残高は、令和5年度末と比較して3億4千万円の減で、80億3千万円

企業債残高の推移等

企業債残高の推移



- 令和6年度末の企業債は、7億円の発行と9億4千万円の償還により、残高は2億4千万円の減

企業債残高対給水収益比率の推移



- 類似団体と比較して、給水収益に対する企業債残高は低い水準（良好な状況）

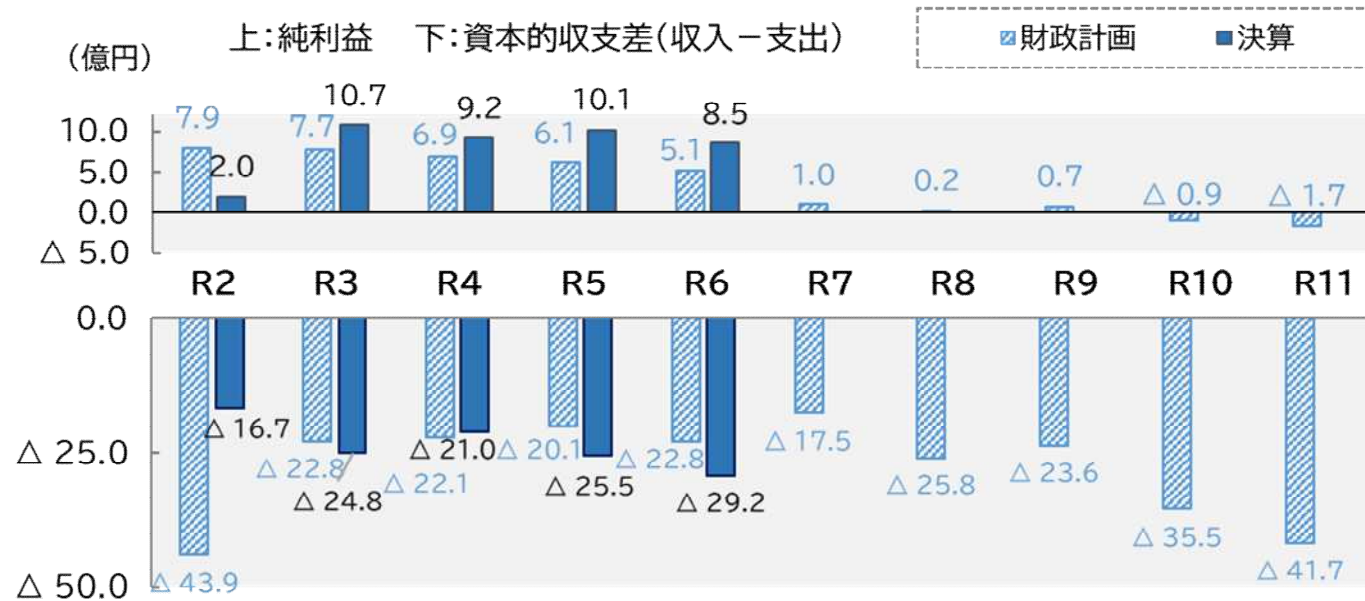
<企業債残高対給水収益比率>

企業債残高 ÷ 給水収益

※類似団体は給水人口30万人以上の末端給水事業

4 財政計画（今後の見通し）

純利益 & 資本的収支差



R2-R6 前期計画

R7-R11 後期計画

累積資金 & 企業債残高



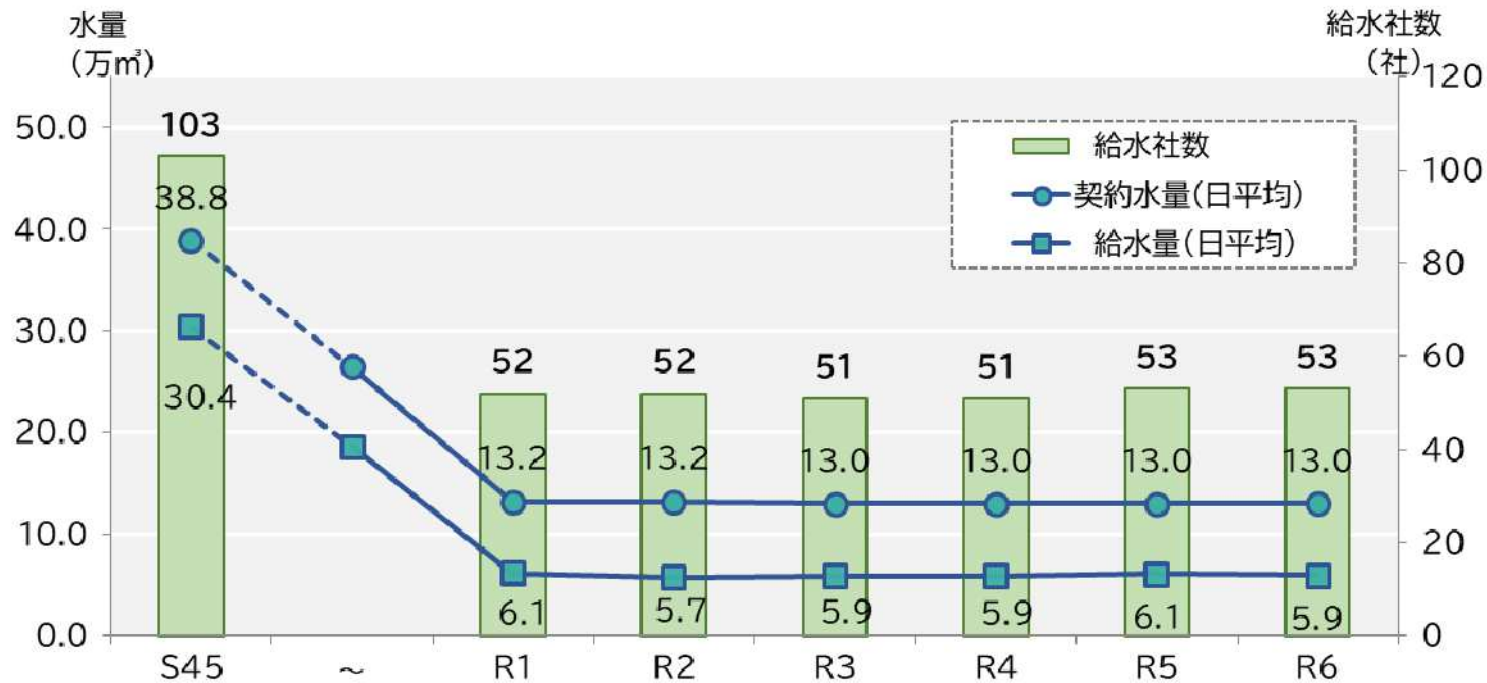
➤ 財政計画（前期）と比較して、純利益は3億4千万円の増、資本的収支差は6億4千万円の増

➤ 今後、企業債残高は増、累積資金残高は減となる見込み（配水管の整備や神崎浄水場の再整備に係る費用の増などによる）

1 業務の概要

区 分		令和6年度	令和5年度	増減	増減率
給 水 社 数		53 社	53 社	0 社	0.0%
契約水量	年間総量	47,582,495 m ³	47,612,358 m ³	△ 29,863 m ³	△ 0.1%
	年度末（日量）	130,363 m ³	130,363 m ³	0 m ³	0.0%
給 水 量		21,688,480 m ³	22,187,975 m ³	△ 499,495 m ³	△ 2.3%

- 給水社数は前年度と変わらず
53社
- 年間給水量は2.25%の減で
2,169万m³



2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

		(百万円)		
		令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	収入	1,805	1,921	① Δ 117
	支出	1,407	1,515	② Δ 108
	当年度純利益	③ 397	407	Δ 9
資本的収支 (税込)	収入	139	139	④ 0
	支出	501	738	⑤ Δ 237
	差引 (A)	Δ 362	Δ 599	237
補てん財源(当年度発生分) (B)		753	807	Δ 54
資金収支 (A + B)		391	207	183
資金残高		⑥ 8,692	8,301	391

- 収益的収支の収入は1億2千万円の減(①)、支出は1億1千万円の減(②)、純利益は1千万円の減で4億円(③)
- 資本的収支の収入は前年度と同額(④)、支出は2億4千万円の減(⑤)
- 年度末の資金残高(資本的収支不足額3億6千万円の補てんを反映)は86億9千万円(⑥)

◇**収益的収支** : 日々の営業活動などに必要な経費

◇**資本的収支** : 施設の改良などに必要な経費

◇**補てん財源** : 純利益、損益勘定留保資金(費用計上するが支出を伴わない減価償却費等)等

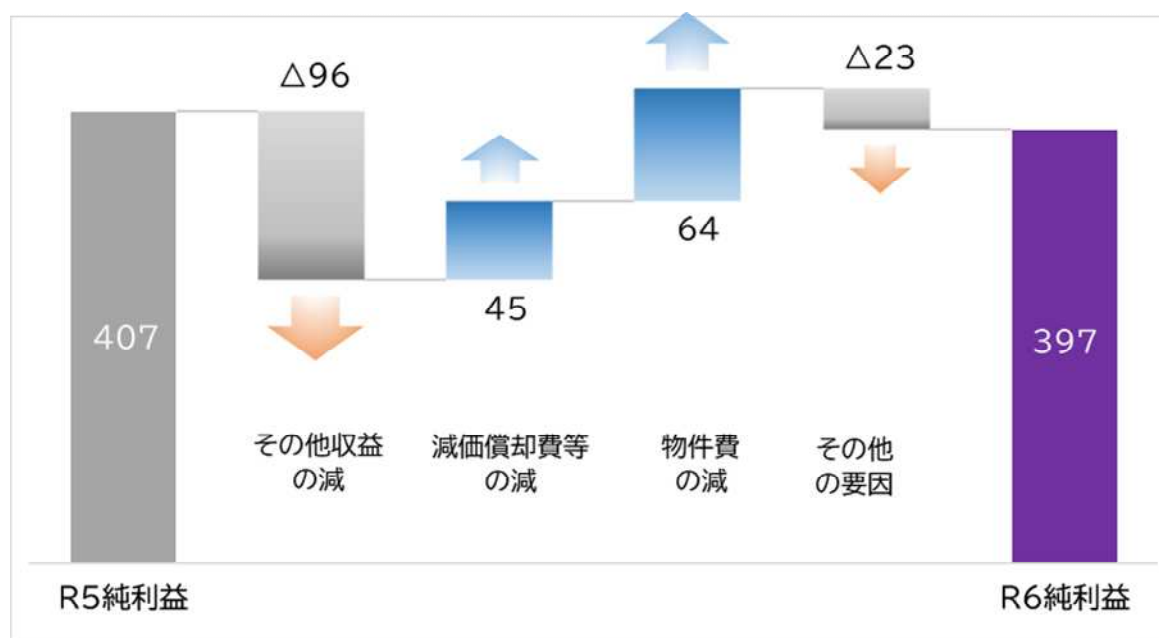
純利益の増減の分析

			(百万円)		
			令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	経常損益	収入	1,601	1,717	△ 116
		支出	1,407	1,515	△ 108
		差引	194	202	△ 8
	特別損益	収入	204	205	△ 1
		支出	0	0	0
		差引	204	205	△ 1
	当年度純利益		397	407	△ 9

- 純利益は、物件費や減価償却費等の減などの改善要因があったものの、その他収益（三市共同施設改良工事に係る負担金）の減などの悪化要因があり、全体で1千万円の減

【増減要因分析】

(百万円)



収益的収支・資本的収支の詳細

		(千円)		
		令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	工業用水道事業収益	1,804,809	1,921,480	△ 116,671
	経常収益	1,601,209	1,716,958	△ 115,749
	給水収益	1,093,008	1,098,766	△ 5,758
	長期前受金戻入	63,643	77,054	△ 13,411
	その他収益	444,558	541,138	△ 96,580
	特別利益	203,600	204,522	△ 922
	工業用水道事業費用	1,407,457	1,514,968	△ 107,511
	経常費用	1,407,457	1,514,968	△ 107,511
	人件費	133,955	132,934	1,021
	給料・手当等	127,213	132,497	△ 5,284
	退職給付費	6,742	437	6,305
	動力・薬品費	255,887	254,964	923
	減価償却費等	383,560	429,003	△ 45,443
	物件費	634,055	698,067	△ 64,012
	特別損失	-	-	-
資本的収支 (税込)	工業用水道事業資本的収入	138,520	138,565	△ 45
	固定資産売却代	38,400	38,445	△ 45
	投資有価証券償還金	100,120	100,120	-
	工業用水道事業資本的支出	500,953	737,916	△ 236,963
	人件費	4,866	6,012	△ 1,146
	建設改良費	396,087	631,904	△ 235,817
	投資有価証券	100,000	100,000	-

➤ **【収益的収入】** その他収益の減（三市共同施設改良工事に係る負担金の減）などにより、全体で1億2千万円の減

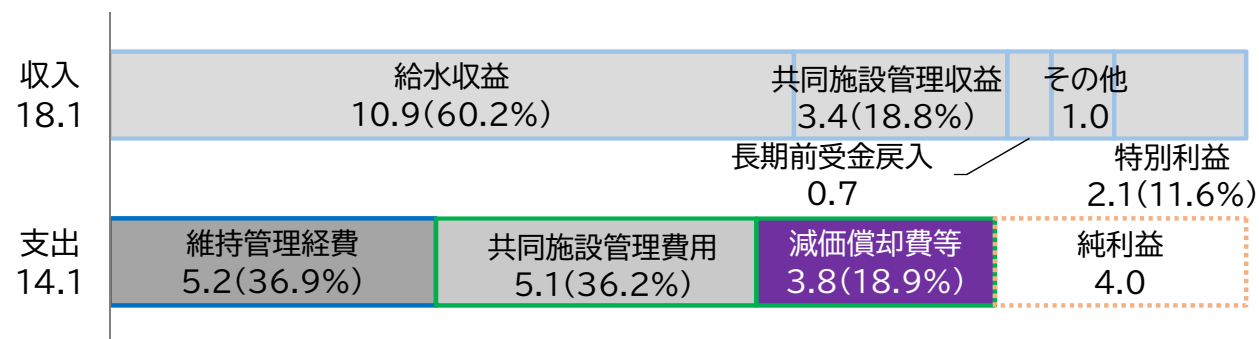
➤ **【収益的支出】** 物件費や減価償却費等の減などにより、全体で1億1千万円の減

➤ **【資本的収入】** 投資有価証券の償還金などで前年度とほぼ同額

➤ **【資本的支出】** 建設改良費（配水管整備、設備更新等）の減などにより、全体で2億4千万円の減

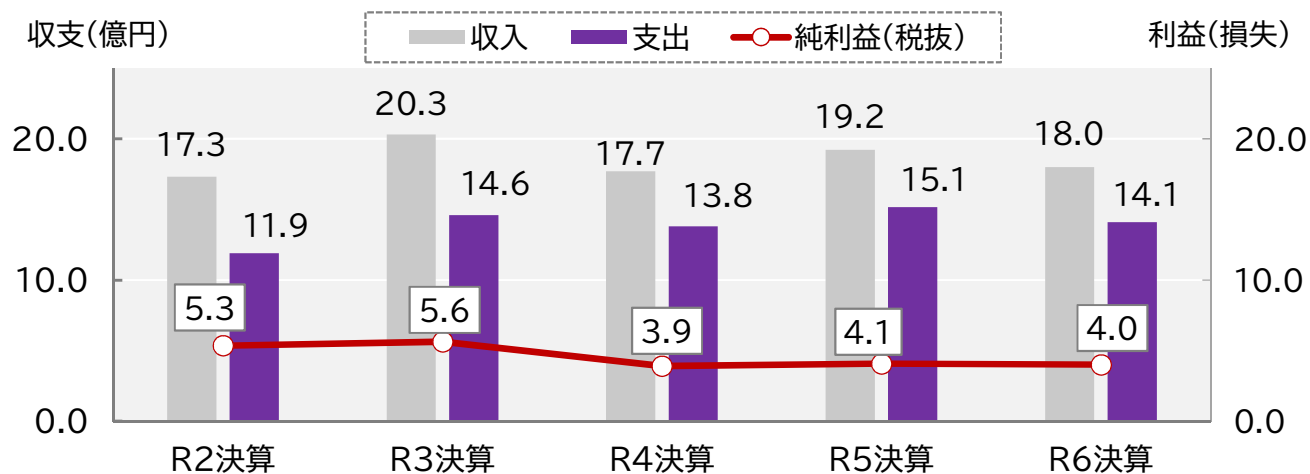
収益的収支の構成・推移等

収入・支出の構成

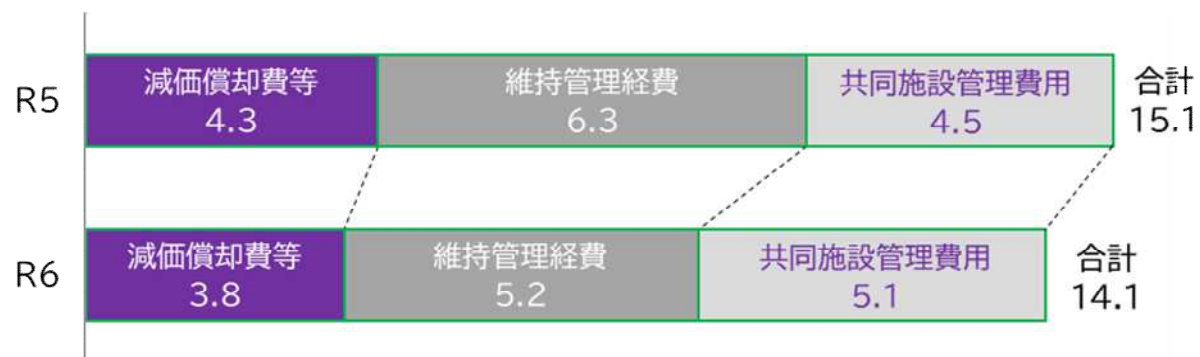


- 収益的収支の収益では、給水収益及び共同施設管理収益がおよそ8割を占めており、支出では、維持管理経費、共同施設管理費用が全体の7割以上を占めている。

収支の推移

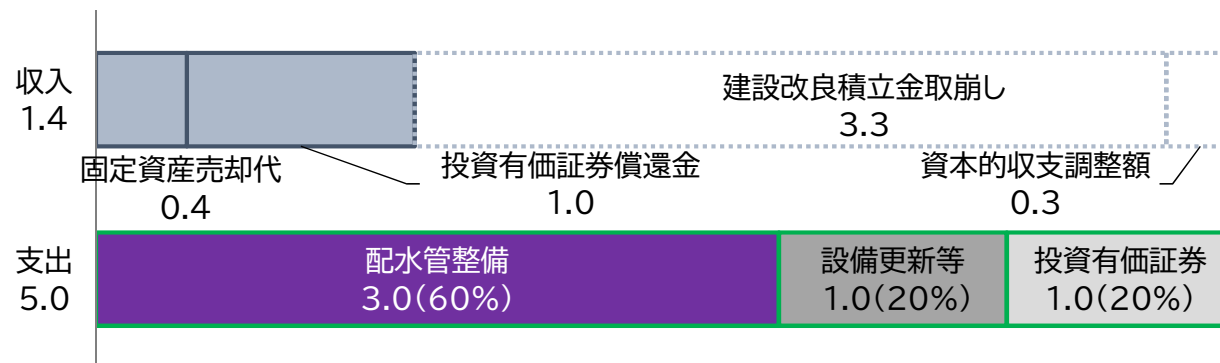


支出の比較

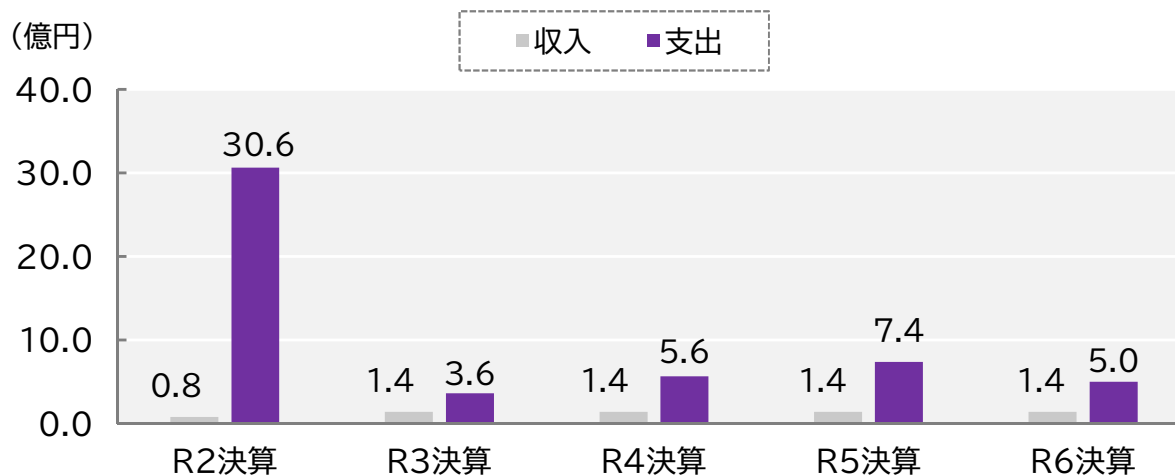


資本的収支の構成・推移等

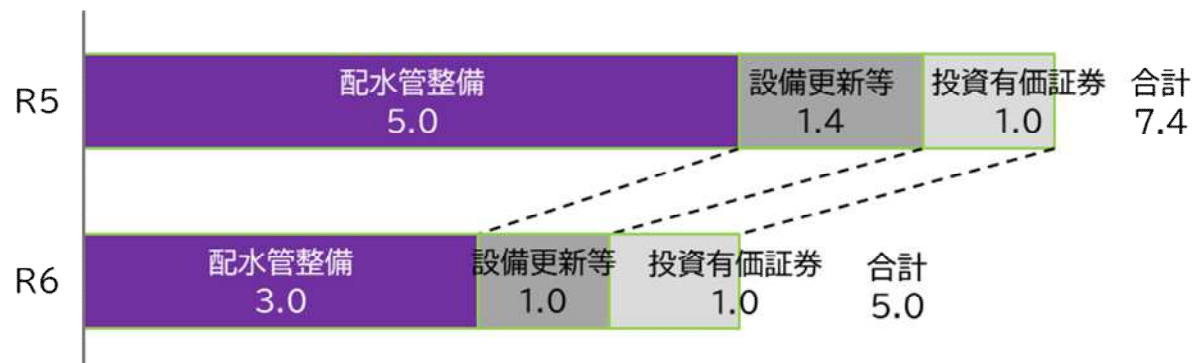
収入・支出の構成
(億円)



収支の推移
(億円)



支出の比較
(億円)



- 資本的収支では、通常不足が生じるため、損益勘定留保資金（現金支出を伴わない減価償却費等）や建設改良積立金の取り崩し等により補てんしている。

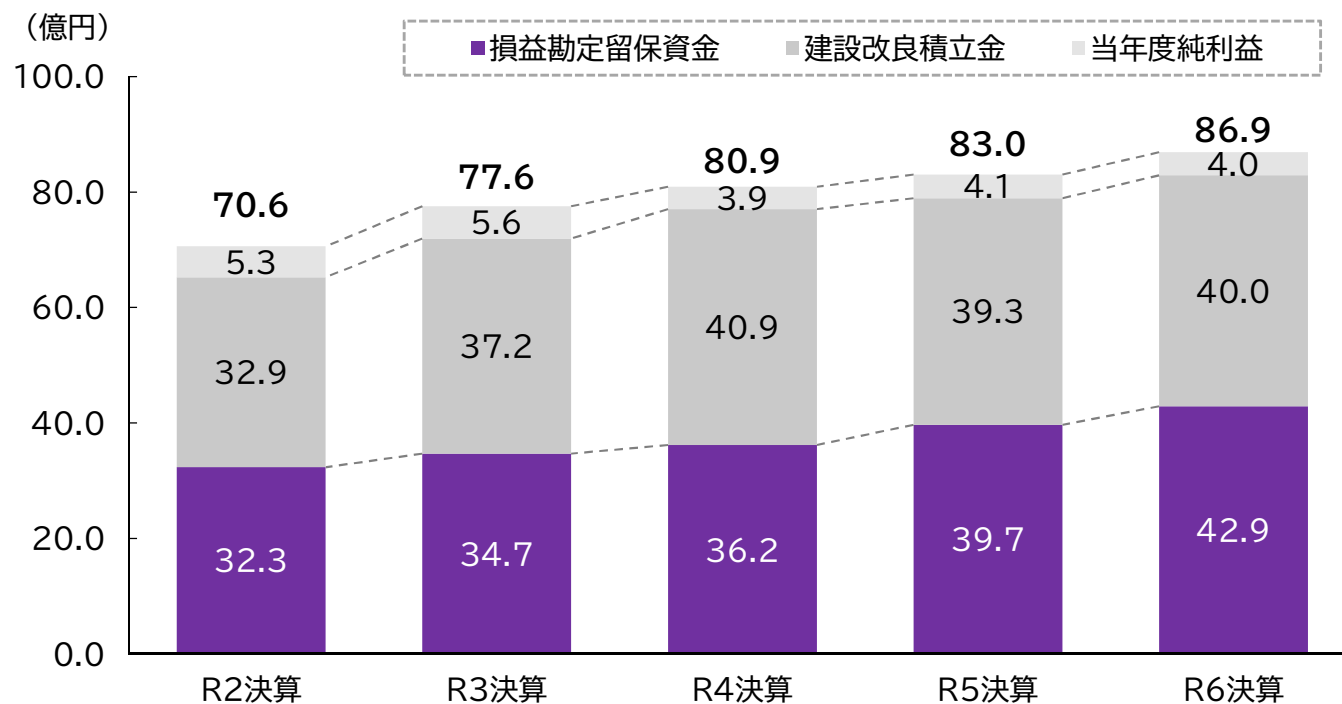
3 利益処分・累積資金残高等（ストックの視点）

利益処分（案）

処分前残高	（千円）	処分後残高	（千円）
建設改良積立金	4,006,589	建設改良積立金	4,403,941
当年度未処分利益剰余金	723,901	議会の議決による処分額	723,901
前年度繰越利益剰余金	-	建設改良積立金の積立て	397,352
当年度純利益	397,352	資本金への組入れ	326,549
建設改良積立金取崩し	326,549	繰越利益剰余金	-

- 令和6年度の当年度純利益4億円は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積立て
- 建設改良積立金の取崩しに伴い発生した3億3千万円は資本金に組入れ

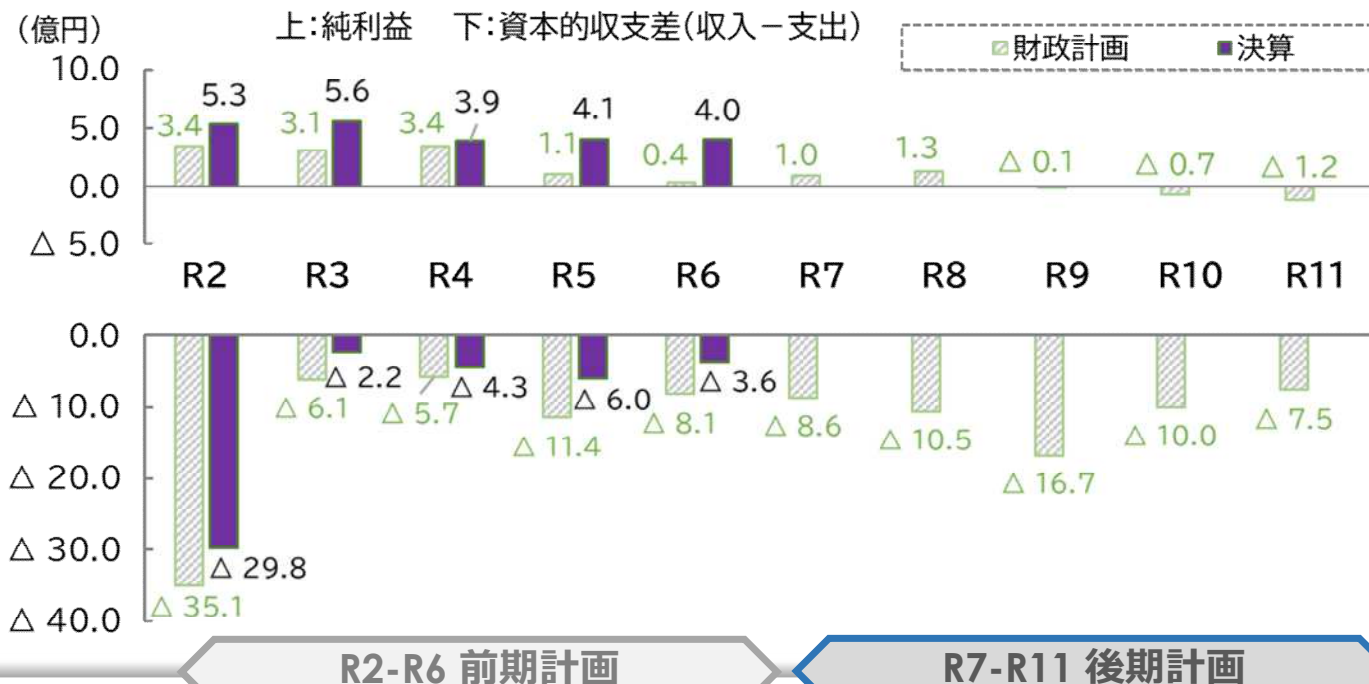
累積資金残高の推移



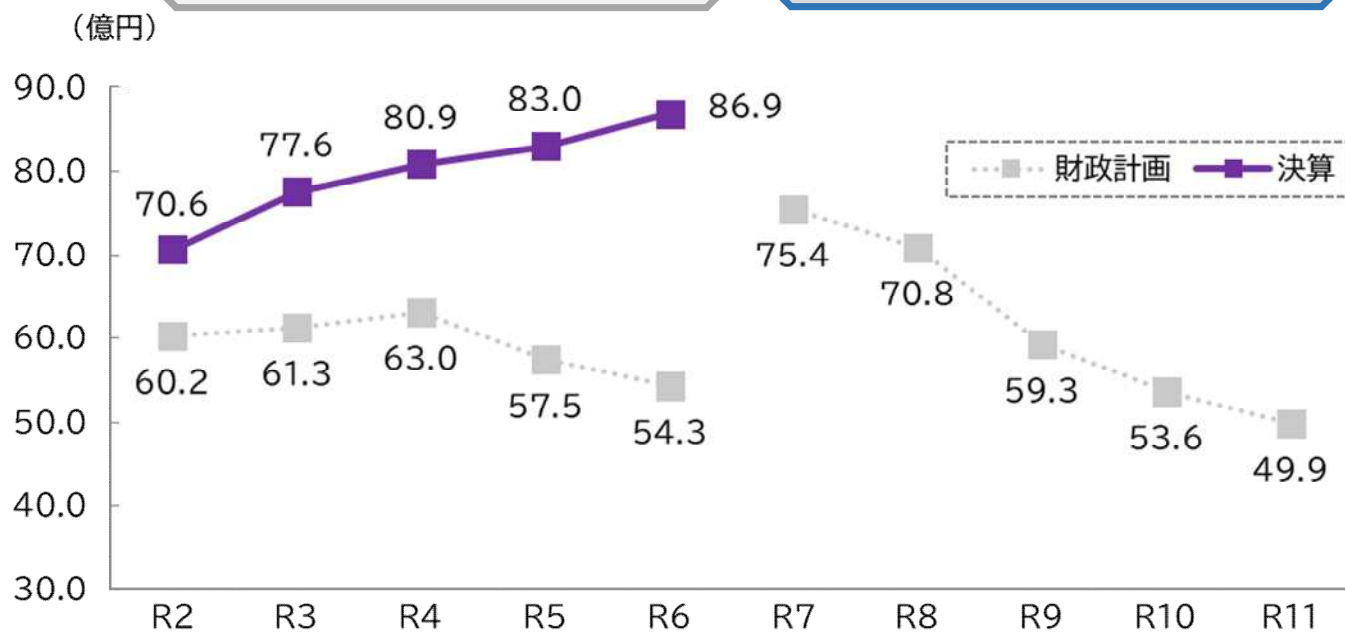
- 令和6年度末の累積資金残高は、令和5年度末と比較して3億9千万円の増で86億9千万円

4 財政計画（今後の見通し）

純利益 & 資本的収支差



累積資金



➤ 財政計画（前期）と比較して、純利益は3億6千万円の増、資本的収支差は4億5千万円の減

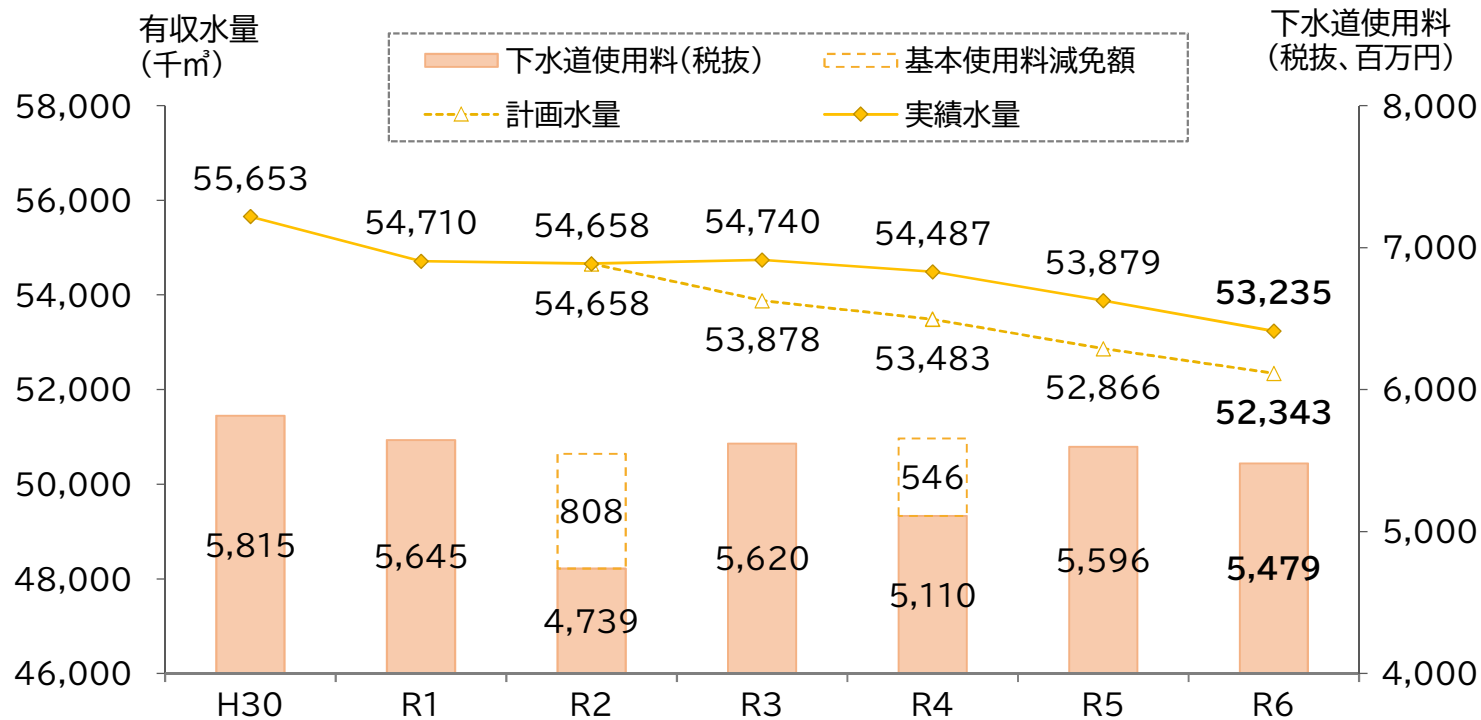
➤ 財政計画（前期）と比較して、累積資金残高は32億6千万円の増となるが、今後、累積資金残高は減となる見込み（園田配水場の設備更新に係る費用の増などによる）

下水道事業会計

1 業務の概要

区 分	令和6年度	令和5年度	増減	増減率
有 収 水 量	53,234,851 m ³	53,879,031 m ³	△ 644,180 m ³	△ 1.2%
雨 水 放 流 量	12,697,612 m ³	14,994,913 m ³	△ 2,297,301 m ³	△ 15.3%
降 雨 量	1,400 mm	1,484 mm	△ 84 mm	△ 5.7%
降 雨 日 数	98 日	115 日	△ 17 日	△ 14.8%

- 有収水量は1.2%の減（水道給水量や地下水使用量の減などによる）
- 雨水放流量は15.3%の減
- 降雨量は5.7%の減



2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

（百万円）

		令和6年度	令和5年度	増減額	
収益的収支 （税抜）	収入	12,704	12,860	①	△ 156
	支出	11,858	11,787	②	72
	当年度純利益	③ 846	1,074		△ 228
資本的収支 （税込）	収入	3,456	3,300	④	155
	支出	7,288	6,809	⑤	478
	差引（A）	△ 3,832	△ 3,509		△ 323
補てん財源(当年度発生分)（B）		4,730	4,939		△ 209
資金収支（A+B）		898	1,430		△ 532
資金残高		⑥ 19,247	18,349		898

- 収益的収支の収入は1億6千万円の減（①）、支出は7千万円の増（②）、純利益は2億3千万円減で8億5千万円（③）
- 資本的収支の収入は1億6千万円の増（④）、支出は4億8千万円の増（⑤）
- 年度末の資金残高（資本的収支不足額38億3千万円の補てんを反映）は192億5千万円（⑥）

◇収益的収支：日々の営業活動などに必要な経費

◇資本的収支：施設の改良などに必要な経費

◇補てん財源：純利益、損益勘定留保資金（費用計上するが支出を伴わない減価償却費等）等

純利益の増減の分析

			(百万円)		
			令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	経常損益	収入	12,697	12,712	△ 15
		支出	11,855	11,785	70
		差引	842	927	△ 85
	特別損益	収入	7	149	△ 141
		支出	3	2	2
		差引	4	147	△ 143
	当年度純利益		846	1,074	△ 228

- 純利益は、長期前受金戻入の増や物件費の減などの改善要因があったものの、下水道使用料や特別利益の減、減価償却費の増などの悪化要因があり、全体で2億3千万円の減

【増減要因分析】

(百万円)



下水道事業会計

収益的収支・資本的収支の詳細

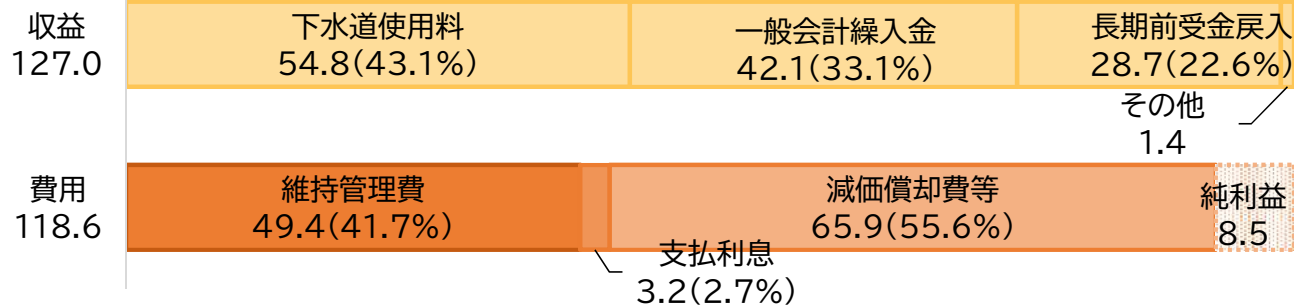
		(千円)		
		令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	下水道事業収益	12,704,413	12,860,353	△ 155,940
	経常収益	12,696,971	12,711,558	△ 14,587
	下水道使用料	5,478,537	5,596,250	△ 117,713
	雨水処理負担金	4,138,788	4,160,876	△ 22,088
	他会計負担金等	72,467	46,397	26,070
	長期前受金戻入	2,865,446	2,792,121	73,325
	その他収益	141,733	115,914	25,819
	特別利益	7,442	148,795	△ 141,353
	下水道事業費用	11,858,349	11,786,746	71,603
	経常費用	11,854,981	11,785,006	69,975
	人件費	514,514	489,493	25,021
	給料・手当等	403,379	375,225	28,154
	退職給付費	111,135	114,268	△ 3,133
	動力費	240,317	250,264	△ 9,947
資本的収支 (税込)	流域下水道負担金	1,349,755	1,351,998	△ 2,243
	減価償却費等	6,594,745	6,465,082	129,663
	支払利息	324,243	344,517	△ 20,274
	物件費	2,831,407	2,883,652	△ 52,245
	特別損失	3,368	1,740	1,628
	下水道事業資本的収入	3,455,586	3,300,409	155,177
	企業債	800,900	1,031,000	△ 230,100
	国庫補助金	2,018,062	1,655,800	362,262
	他会計補助金	570,068	570,048	20
	負担金等	66,556	43,561	22,995
	下水道事業資本的支出	7,287,826	6,809,442	478,384
	人件費	241,943	229,523	12,420
	公共下水道整備費	154,463	472,012	△ 317,549
	施設改良費	4,006,858	3,155,961	850,897
	流域下水道整備費	172,565	96,658	75,907
	企業債償還金	1,703,104	1,845,087	△ 141,983
	投資有価証券等	1,008,893	1,010,201	△ 1,308

- **【収益的収入】** 下水道使用料の減、特別利益の減などにより、収入全体では1億6千万円の減
- **【収益的支出】** 物件費（委託料、負担金など）や支払利息が減となったものの、減価償却費等の増などにより、7千万円の増
- **【資本的収入】** 企業債借入額が減となったものの、国庫補助金の増などにより、1億6千万円の増
- **【資本的支出】** 公共下水道整備費や企業債償還金は減となったものの、施設改良費などの増などにより、4億8千万円の増

下水道事業会計

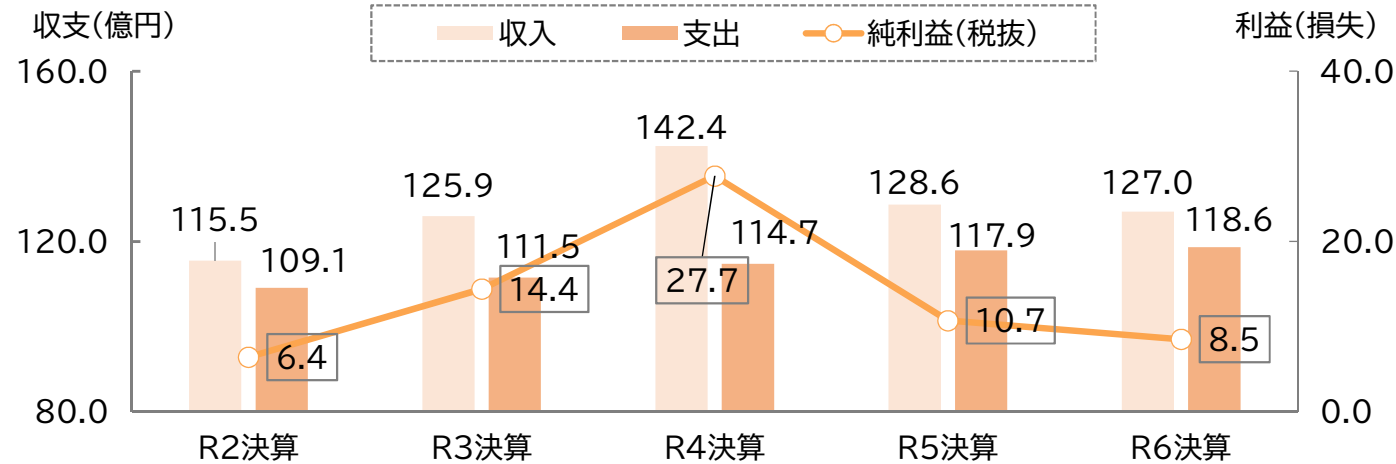
収益的収支の構成・推移等

収入・支出の構成

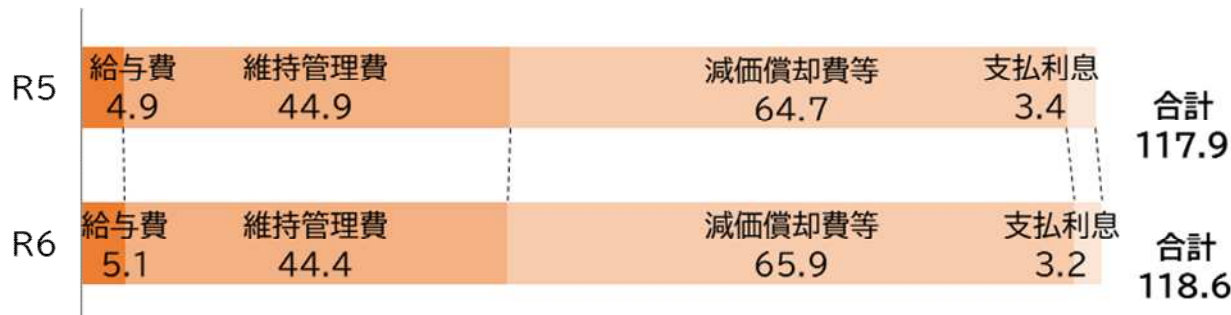


- 収益的収支の収益では、下水道使用料と一般会計繰入金で7割以上を占めており、支出では、減価償却費や支払利息などの固定費が6割近くを占めている。

収支の推移



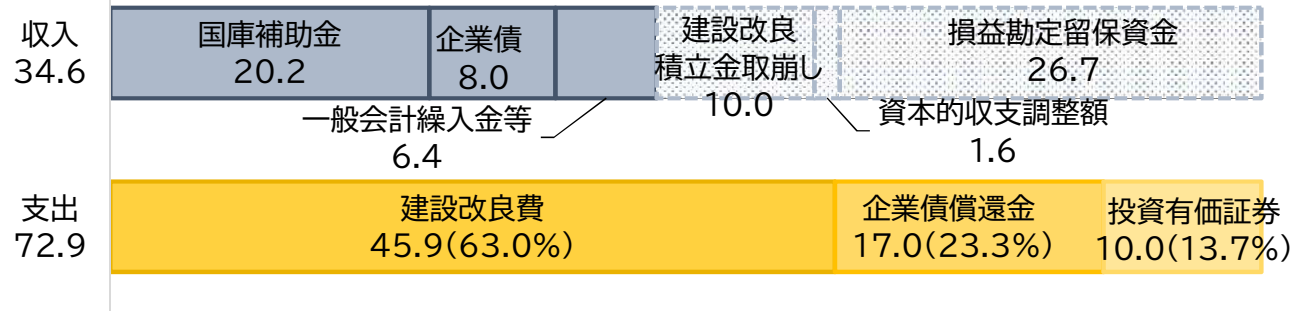
支出の比較



下水道事業会計

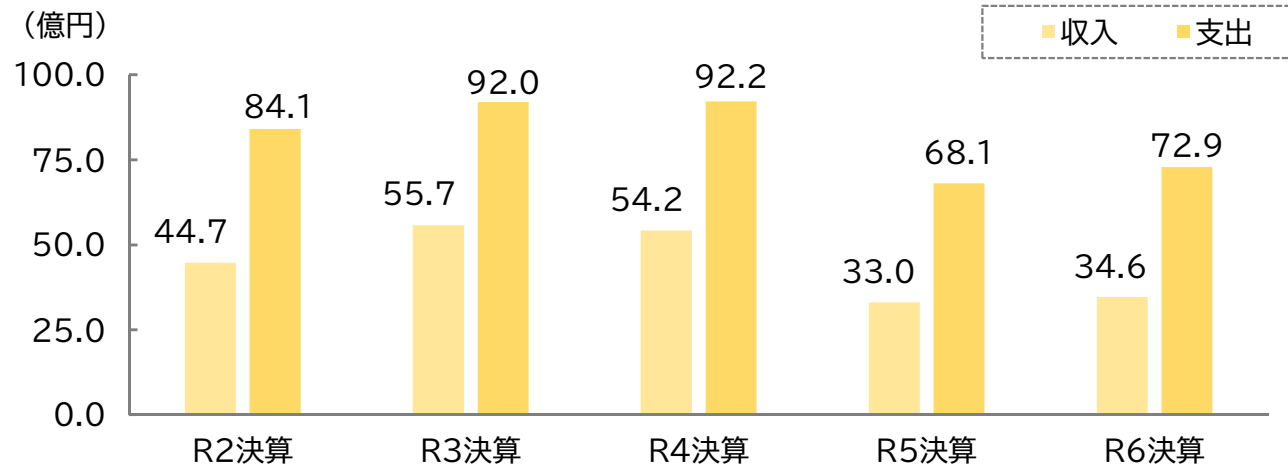
資本的収支の構成・推移等

収入・支出の構成
(億円)

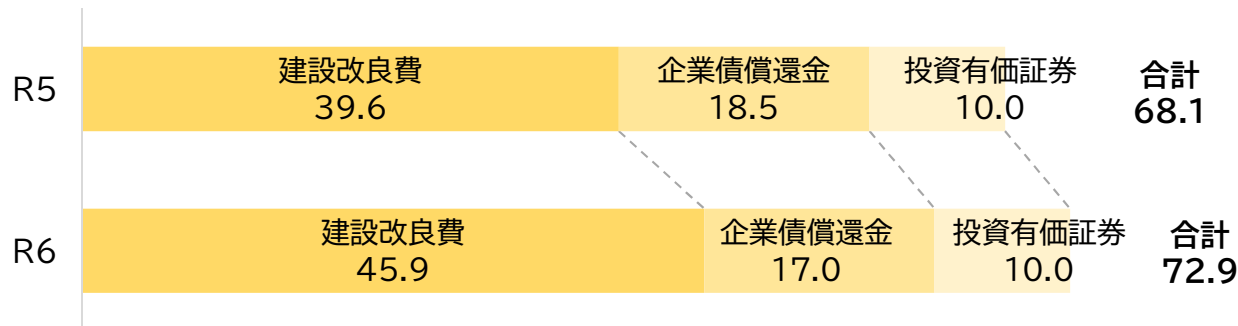


- 資本的収支では、通常不足が生じるため、損益勘定留保資金（現金支出を伴わない減価償却費等）や建設改良積立金の取り崩し等により補てんしている。

収支の推移
(億円)



支出の比較
(億円)



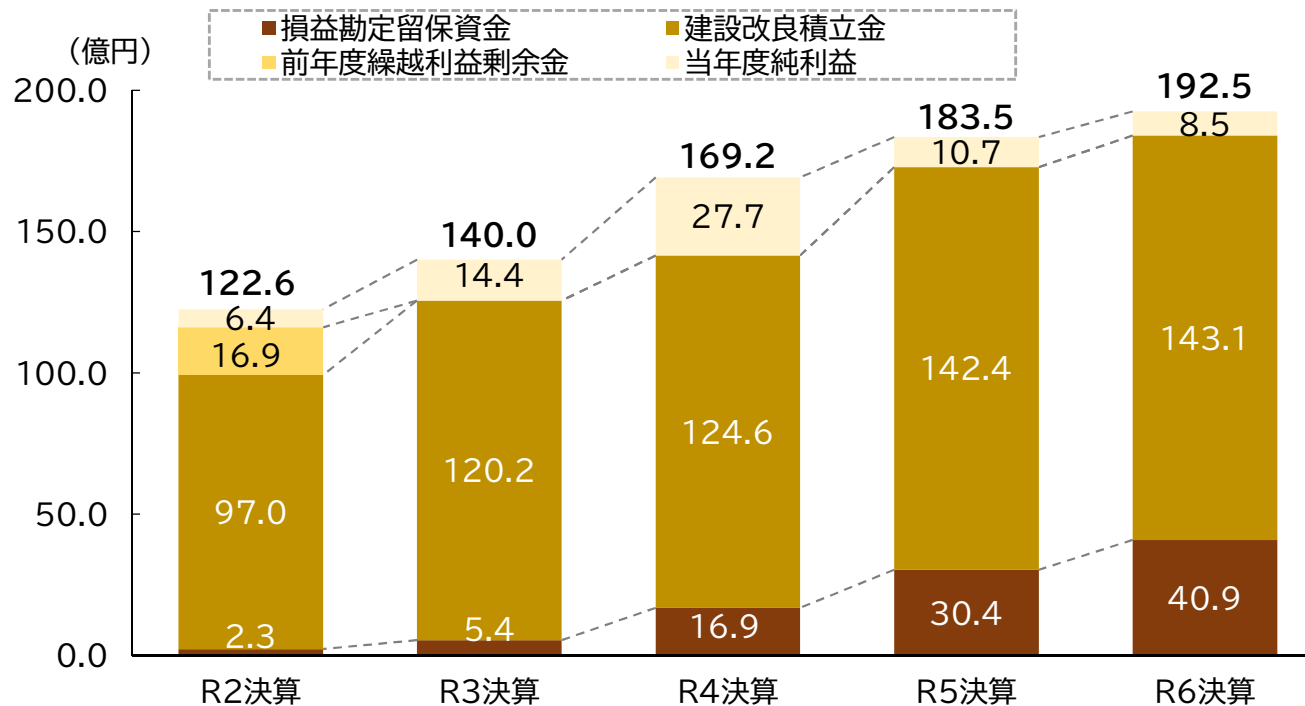
3 利益処分・累積資金残高等（ストックの視点）

利益処分（案）

処分前残高 (千円)		処分後残高 (千円)	
建設改良積立金		建設改良積立金	
14,307,136		15,153,200	
当年度未処分利益剰余金	1,846,064	議会の議決による処分額	1,846,064
前年度繰越利益剰余金	-	建設改良積立金の積立て	846,064
当年度純利益	846,064	資本金への組入れ	1,000,000
建設改良積立金取崩し	1,000,000	繰越利益剰余金	-

- 令和6年度の当年度純利益8億5千万円は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積立て
- 建設改良積立金の取崩しに伴い発生した10億円は資本金に組入れ

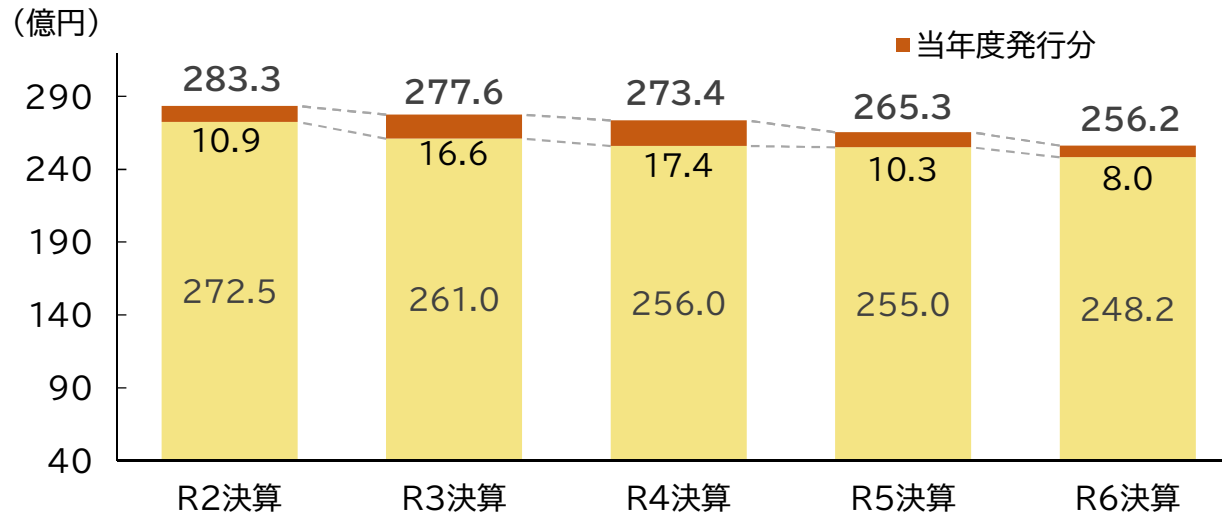
累積資金残高の推移



- 令和6年度末の累積資金残高は、令和5年度末と比較し9億円増加し、192億5千万円

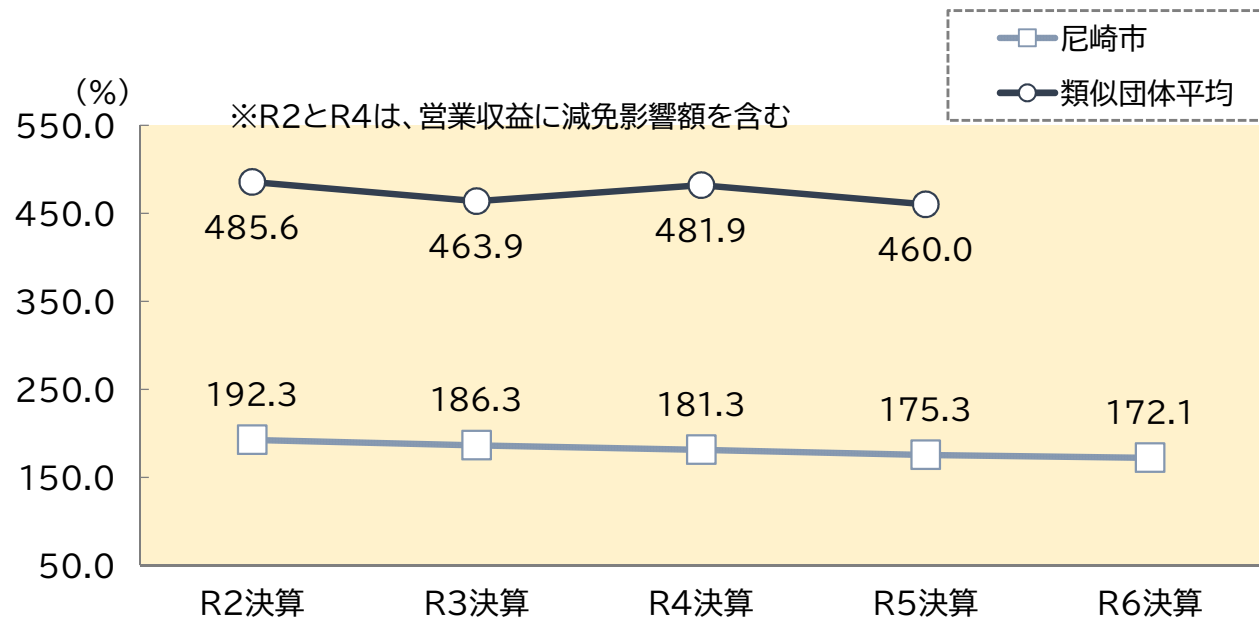
企業債残高の推移等

企業債残高の推移



- 令和6年度末の企業債は、8億円の発行と17億1千万円の償還により、令和5年度末と比べ、9億1千万円の減

企業債残高対事業規模比率の推移



- 類似団体と比較して、事業規模に対する企業債残高は低い水準（良好な状況）

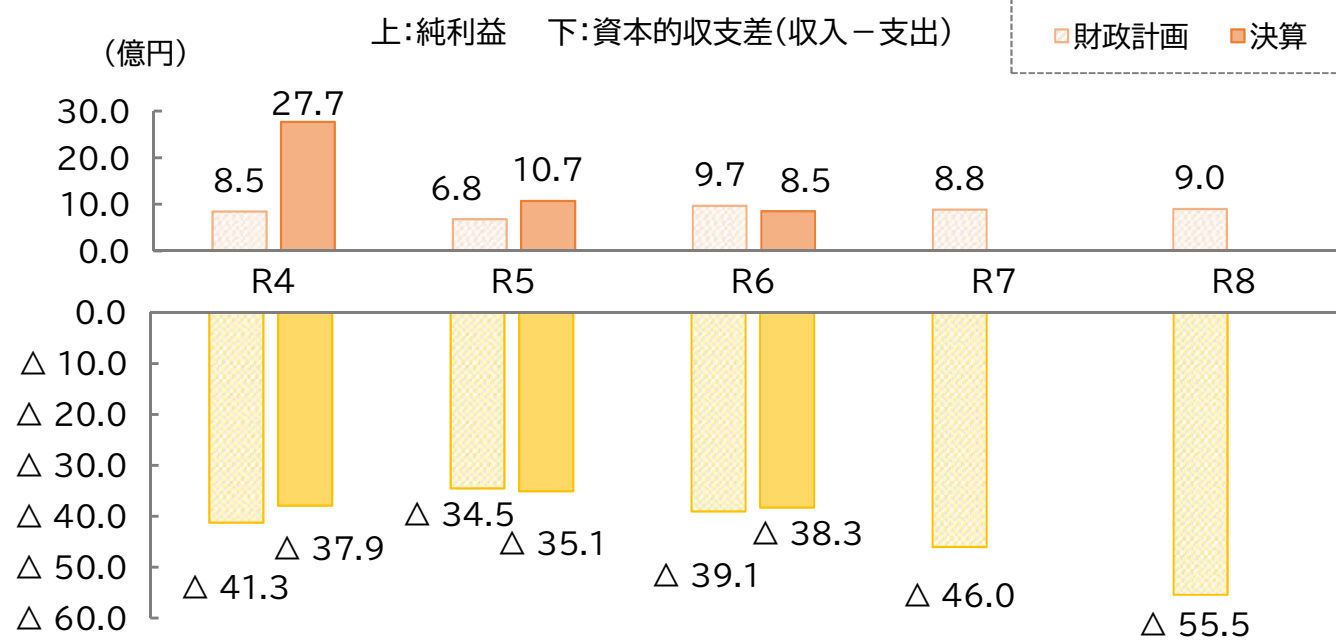
<企業債残高対事業規模比率>

$$\frac{(\text{企業債残高} - \text{一般会計負担額})}{(\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金})} \times 100$$

※類似団体は処理区域内人口10万人以上かつ人口密度100人/ha以上の団体

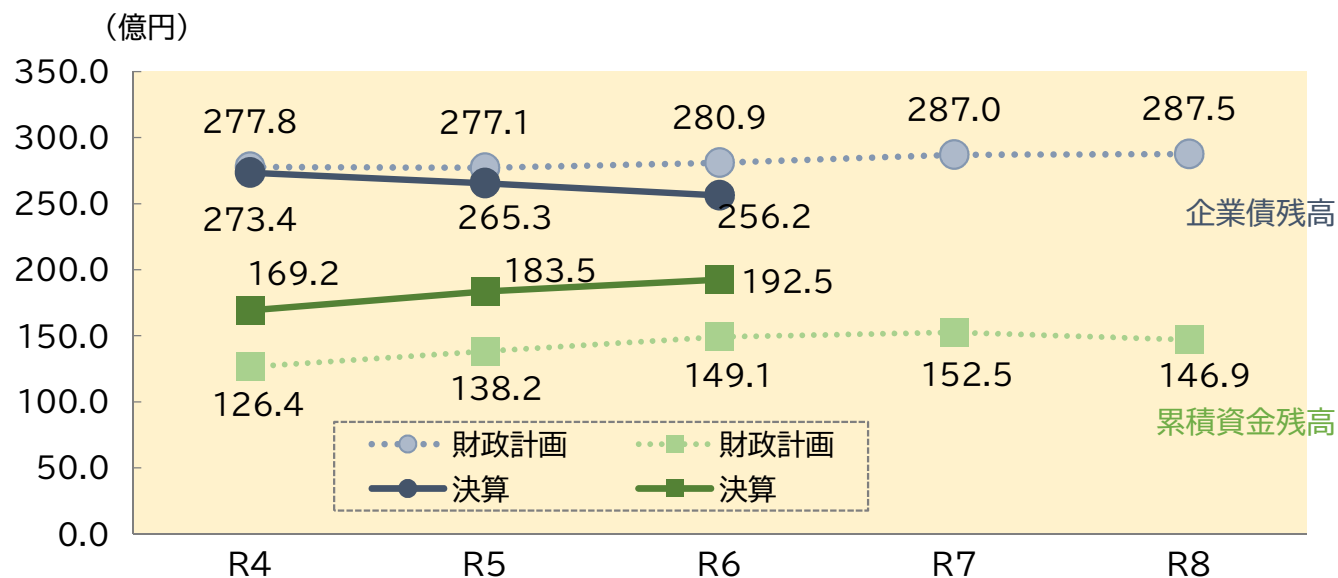
4 財政計画（今後の見通し）

純利益 & 資本的収支差



- 令和6年度決算は、財政計画と比較して純利益は1億2千万円の減、資本的収支差は8千万円の減

累積資金 & 企業債残高



- 工事の進捗などにより、企業債残高は、財政計画と比較して24億7千万円の減、累積資金残高は、43億4千万円の増

1 業務の概要

区 分		令和6年度	令和5年度	増減	増減率
開 催 日 数		130日	130日	－日	0.0%
舟 券 発 売 金 (主 催)	年 間 総 数	70,239,828千円	56,550,280千円	13,689,548千円	24.2%
	一 日 平 均	540,306千円	435,002千円	105,304千円	
売 上 金 (主 催)	年 間 総 数	69,500,936千円	56,213,332千円	13,287,604千円	23.6%
	一 日 平 均	534,623千円	432,410千円	102,212千円	
有 料 入 場 者 数	年間総数	286,517人	263,589人	22,928人	8.7%
		(子ども:54,178人)	(子ども:43,603人)	9,753人	22.4%
	一 日 平 均	2,204人	2,028人	176人	

- 売上金は前年度に比べ23.6%増となる695億円、有料入場者数は8.7%増となる286,517人
- SGのグランドチャンピオン、GⅠのダイヤモンドカップの開催があったことが、売上金が増加した主な要因

主なレース

グレード	令和6年度		令和5年度	
	レース名	売上金	レース名	売上金
SG	グランドチャンピオン	16,033百万円		
GⅠ	尼崎ダイヤモンドカップ	6,044百万円	尼崎センブルカップ(開設71周年記念)	6,958百万円
	尼崎センブルカップ(開設72周年記念)	7,334百万円		
GⅡ			第5回全国ボートレース甲子園	7,317百万円
GⅢ	オールレディース競走 あまがさきピンクルカップ	5,167百万円	オールレディース競走 あまがさきピンクルカップ	5,525百万円
			サッポロビールカップ	2,431百万円
一般	20回(総開催日数:106日)	1日平均:329百万円	20回(総開催日数:106日)	1日平均:321百万円

2 収益的収支・資本的収支（フローの視点）

		(百万円)		
		令和6年度	令和5年度	増減額
収益的収支 (税抜)	収入	74,188	60,714	① 13,474
	支出	69,944	57,471	② 12,473
	当年度純利益	③ 4,244	3,243	1,001
資本的収支 (税込)	収入	10	0	④ 10
	支出	2,971	654	⑤ 2,317
	差引(A)	△ 2,961	△ 654	△ 2,307
補てん財源(当年度発生分)(B)		5,201	4,287	914
利益処分繰出金(C)		△ 2,542	△ 3,777	1,235
資金収支(A+B+C)		△ 302	△ 144	△ 158
資金残高		⑥ 10,806	11,108	△ 302

- 収益的収支の収入は134億7千万円の増（①）、支出は124億7千万円の増（②）、純利益は10億円の増で42億4千万円（③）
- 資本的収支の収入は1千万円の増（④）、支出は23億2千万円の増（⑤）
- 年度末の資金残高（資本的収支不足額29億6千万円の補てんを反映）は108億1千万円（⑥）

◇収益的収支：日々の営業活動などに必要な経費

◇資本的収支：施設の改良などに必要な経費

◇補てん財源：純利益、損益勘定留保資金（費用計上するが支出を伴わない減価償却費等）等

純利益の増減の分析

(百万円)

		令和6年度	令和5年度	増減額	
収益的収支（税抜）	経常損益	収入	74,188	60,714	13,474
		支出	69,944	57,471	12,473
		差引	4,244	3,243	1,001
	特別損益	収入	0	0	0
		支出	0	0	0
		差引	0	0	0
	当年度純利益		4,244	3,243	1,001

- (A)売上と売上連動経費の差額については、収入が売上金の増などにより135億4千万円の増、支出が払戻金の増などにより118億5千万円の増、その差引で16億9千万円の増
- (E)その他費用は、SGの開催に伴う選手賞金や広告宣伝費などの増により8億9千万円の増
- その結果、純利益は全体で10億円の増

純利益増減の分析

(単位:百万円)



収益的収支・資本的収支の詳細

収益的収支

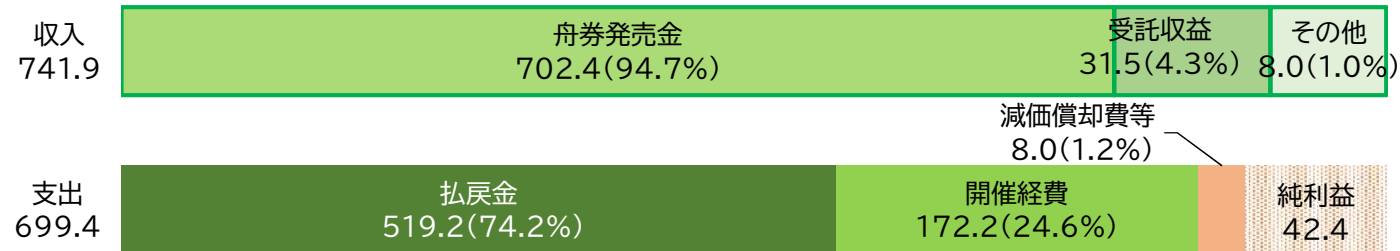
資本的収支

	令和6年度	令和5年度	増減額	(千円)
モーターボート競走事業収益	74,188,117	60,713,491	13,474,626	
経常収益	74,188,117	60,713,491	13,474,626	
開催収益	70,239,828	56,550,280	13,689,548	
受託収益	3,152,606	3,302,932	△ 150,326	(A)
その他収益	795,683	860,279	△ 64,596	(B)
特別利益	-	-	-	
モーターボート競走事業費用	69,943,518	57,470,741	12,472,777	
経常費用	69,943,518	57,470,741	12,472,777	
人件費	562,206	598,192	△ 35,986	(C)
給料・手当等	542,515	526,295	16,220	
退職給付費	19,691	71,897	△ 52,206	
払戻金	51,915,085	41,997,323	9,917,762	
委託料	6,137,113	4,250,287	1,886,826	(A)
負担金、補助及び交付金	4,107,670	4,642,676	△ 535,006	
減価償却費等	799,624	1,030,721	△ 231,097	(D)
繰出金	320,000	320,000	-	
その他物件費	6,101,820	4,631,542	1,470,278	(A)
特別損失	-	-	-	
モーターボート競走事業資本的収入	10,484	-	10,484	
補助金	10,484	-	10,484	
モーターボート競走事業資本的支出	2,970,643	654,599	2,316,044	
人件費	55,685	48,083	7,602	
建設改良費	2,614,958	506,516	2,108,442	
投資有価証券	300,000	100,000	200,000	

- **【収益的収入】** SGの開催があったため、開催収益が136億9千万円の増
- 電投の普及などにより、受託収益が1億5千万円の減
- **【収益的支出】** 売上の増加に伴う払戻金が99億2千万円の増、電投事務関連経費が5億9千万円の増など、売上連動経費の合計が118億5千万円の増
- **【資本的収入】** 投票機器の更新に伴う補助金により1千万円の増
- **【資本的支出】** 競技エリア改修事業等で建設改良費が21億1千万円の増

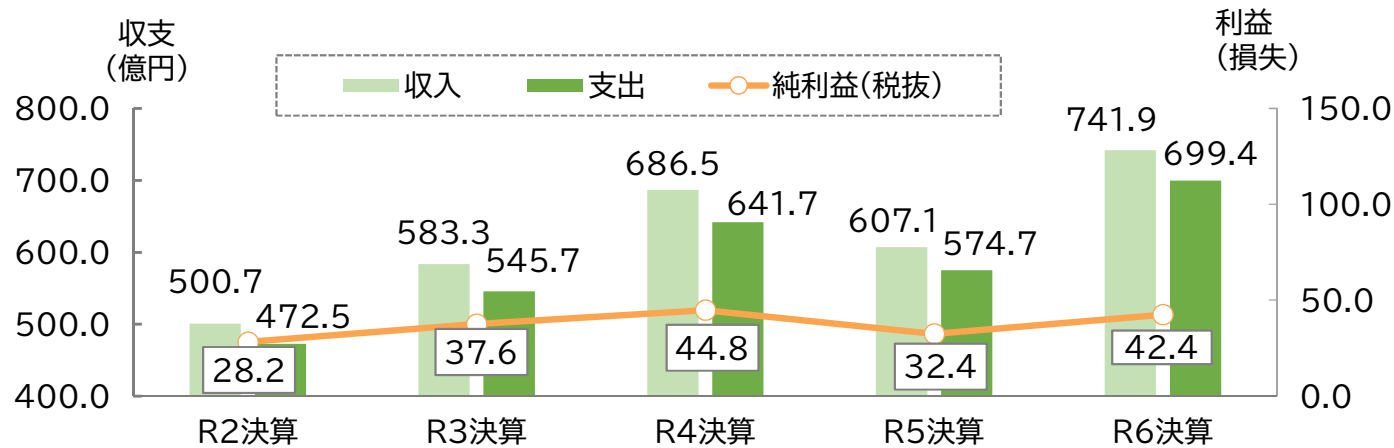
収益的収支の構成・推移等

収入・支出の構成

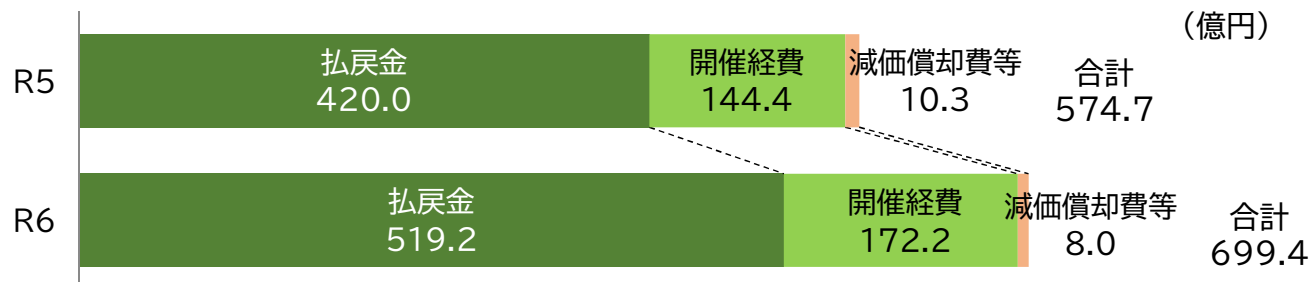


➤ 収益的収支の収入では、舟券発売金が9割以上を占めており、支出では、払戻金が7割以上を占めている。

収支の推移



支出の比較



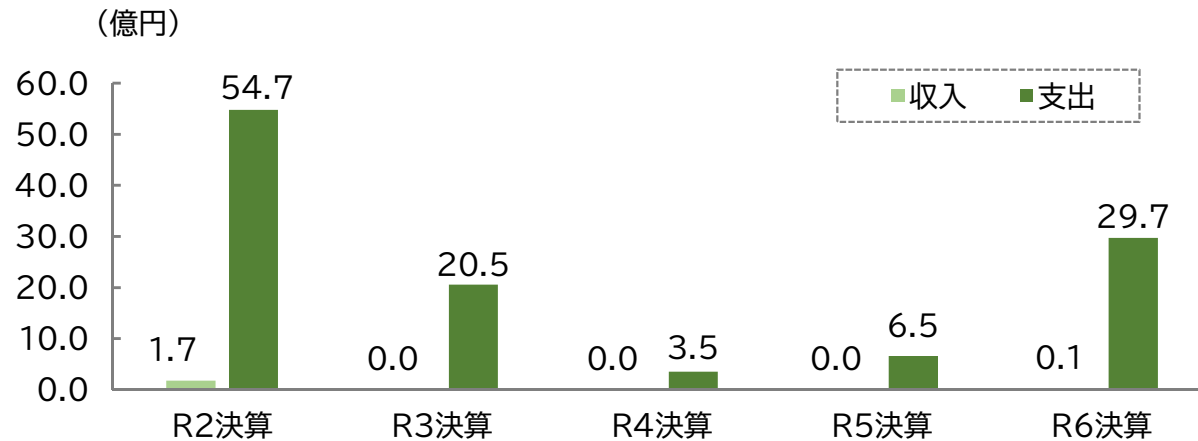
資本的収支の構成・推移等

収入・支出の構成
(億円)



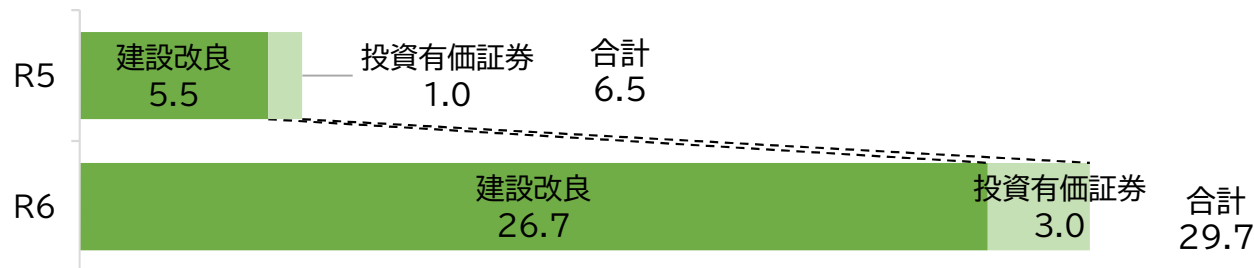
➤ 資本的収支では、通常不足が生じるため、建設改良積立金取崩しや現金支出を伴わない減価償却費などの内部留保資金で補てんする。

収支の推移
(億円)



年度	主な工事 (億円)			
R2	競走場施設改修	(16.9)		
R3		(16.4)		
R4	大時計設備改修	(0.8)		
R5	競技エリア改修	(2.2)	メインスタンド内装等改修	(2.0)
R6		(10.4)	防風ネット整備工事	(2.2)
			冷温水発生装置等改修工事	(5.2)

支出の比較
(億円)



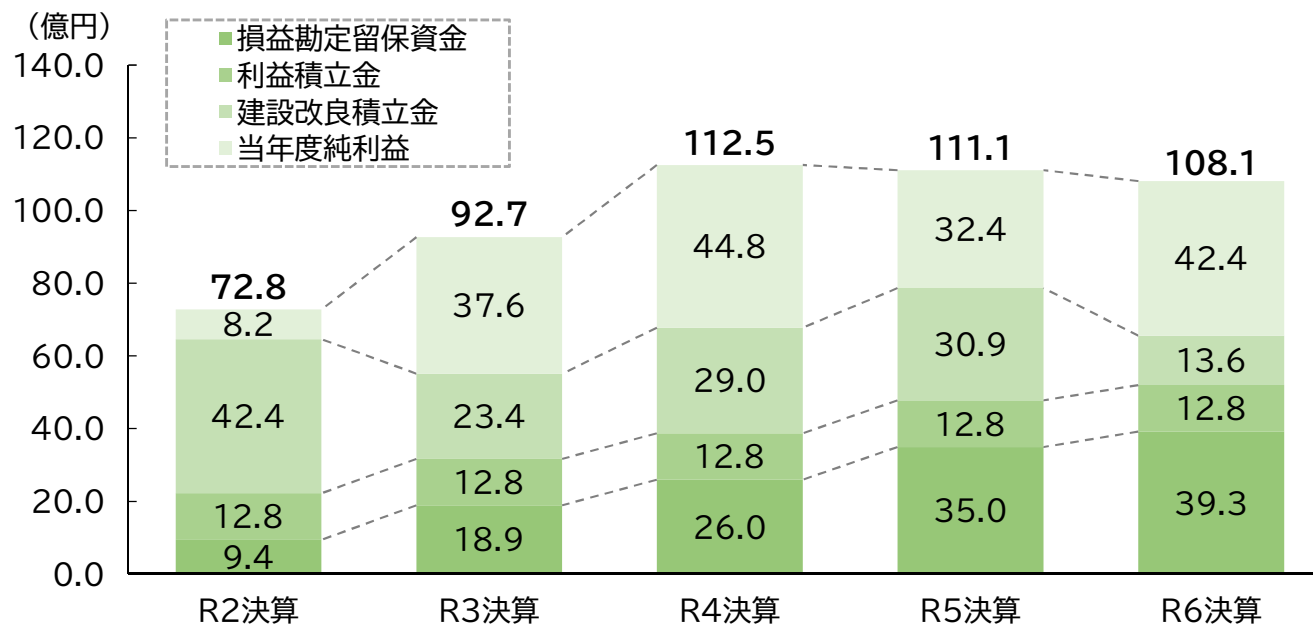
3 利益処分・累積資金残高等（ストックの視点）

利益処分（案）

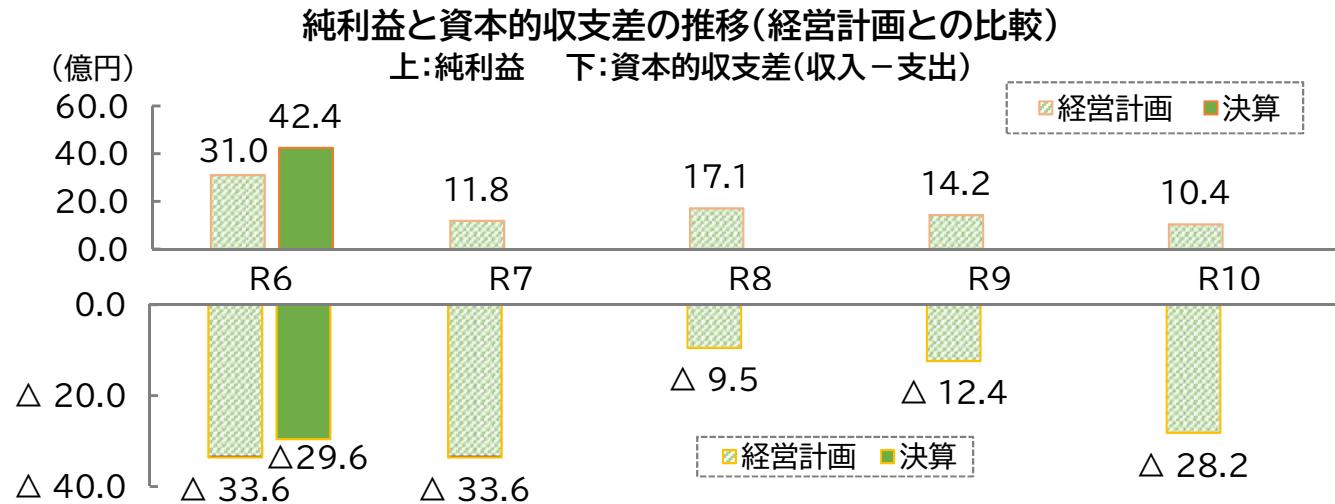
処分前残高		処分後残高		(単位:千円)	
利益積立金	1,279,395	利益積立金	1,279,395		
建設改良積立金	1,362,332	建設改良積立金	2,062,332		
		繰越利益剰余金	5,366,287		
当年度未処分利益剰余金	12,038,440	議会の議決による処分量	6,672,153		
前年度繰越利益剰余金	5,366,287	建設改良積立金の積立て	700,000		
当年度純利益	4,244,598	一般会計繰出金	3,544,598		
建設改良積立金取崩し	2,427,555	資本金への組入れ	2,427,555		

- 令和6年度の当年度純利益42億4千万円は、施設整備の財源とするため、7億円を建設改良積立金に積立て、35億4千万円は一般会計へ繰り出す
- 建設改良積立金の取崩しに伴い発生した24億3千万円は資本金に組入れ
- 令和6年度末の累積資金残高は、令和5年度末と比較して3億円の減で、108億1千万円
- 計画に基づき、長期的な視点で施設整備に係る資金の積み立てを実施

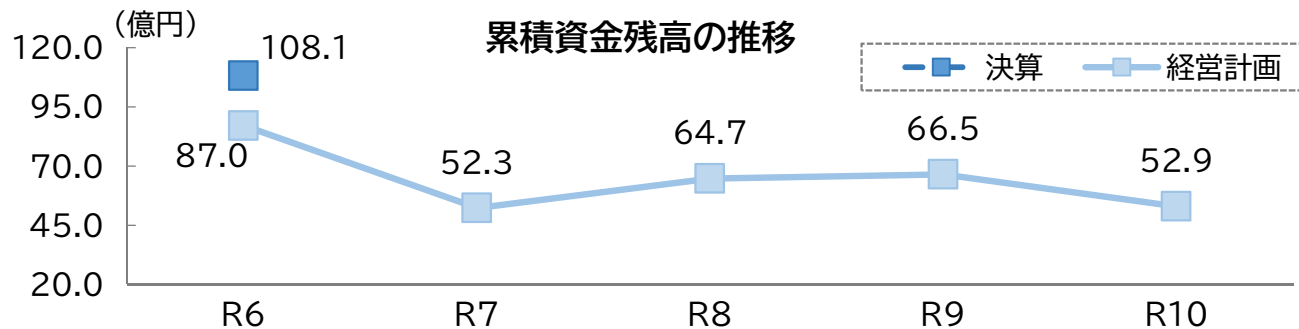
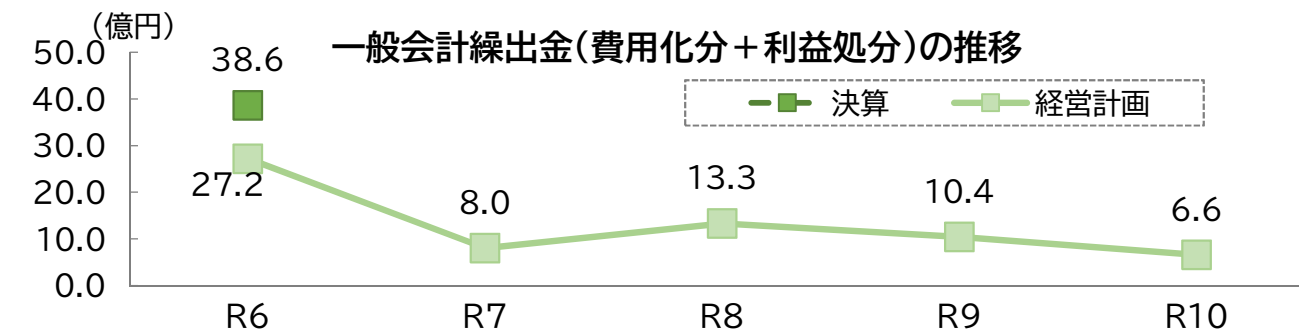
累積資金残高の推移



4 経営計画との比較（今後の見通し）



➤ 経営計画と比較して、純利益は
11億4千万円の増



➤ 累積資金残高は、計画と比較し
て、純利益が改善するとともに、
工事進捗の遅れにより、21億1
千万円の増